

公益社団法人郡山青年会議所
2023 年度事業報告

公益社団法人郡山青年会議所 2023年度年間事業

日時		業務報告
1月	4日	新年祈禱 / 場所：安積国造神社
1月	4日	第1回 正副会長会議
1月	4日	第1回 臨時理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
1月	4日	郡山商工会議所賀詞交歓会 / 場所：ホテルハマツ
1月	4日	郡山青年会議所OB会令和4年度総会 / 場所：ホテルハマツ
1月	4日	第1回 常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
1月	5日	公益社団法人会津青年会議所新年会 / 場所：会津若松ワシントンホテル
1月	12日	NPO法人郡山農学校 農始式 / 場所：農学校ビニールハウス
1月	12日	第1回県南エリア会議 / 場所：いわき石川
1月	13日	令和4年度第1回日本遺産「一本の水路」プロモーション協議会運営部会 / 場所：郡山市総合福祉センター 5階
1月	13日	第1回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
1月	13日	郡山ロータリークラブ理事長卓話 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
1月	13日	第1回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
1月	13日	第1回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
1月	16日	公益社団法人郡山青年会議所2023年度新年会 / 場所：ビューホテル 4階 パラシオ
1月	17日	郡山商工会議所青年部新年会 / 場所：郡山ビューホテル
1月	19日	郡山ロータリークラブ理事長卓話 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
1月	20日	2023年度 京都会議 出向者決起式 / 場所：京都国際会館 Main Hall
1月	20日	令和4年度「県中地域づくり交流会」（令和4年度サポート事業成果発表会・令和5年度サポート事業募集） / 場所：県中地方振興仮庁舎2階第1会議室
1月	21日	2023年度 京都会議 第172回総会 / 場所：京都国際会館 Main Hall
1月	22日	2023年度 京都会議 新年式典 / 場所：京都国際会館 Main Hall
1月	24日	郡山うねめまつり実行委員会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
1月	25日	郡山市商店連合会新年会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
1月	25日	公益社団法人だて青年会議所 新年会 / 場所：保原中央交流館
1月	26日	第58回郡山市こどもまつり実行委員会 / 場所：郡山市役所西庁舎5階
1月	26日	公益社団法人二本松青年会議所 新年会 / 場所：二本松御苑

1月	27日	公益社団法人白河青年会議所 新年会 / 場所：ハウスオブベルヴィ白河
1月	28日	公益社団法人いわき青年会議所 新年会 / 場所：PALACE IWAYA (パレスいわや)
1月	28日	一般社団法人浪江青年会議所 新年会 / 場所：如水
1月	28日	一般社団法人相馬青年会議所 新年会 / 場所：ゲストハウス ヒルトップ Nリゾート福島 レストラン ブロンズ
1月	29日	第25回音楽都市こおりやまふれあいコンサート / 場所：郡山文化センター
1月	30日	1月例会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス 4F 花勝見
1月	30日	1月定時総会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス 4F 花勝見
1月	31日	公益社団法人福島青年会議所 新年会 / 場所：エルティ ウェディング・パーティ エンポリアム
1月	31日	一般社団法人もとみや青年会議所 新年会 / 場所：ネーブルシティもとみやオーブ
2月	1日	第2回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
2月	2日	新春道路整備セミナー / 場所：ホテルハマツ
2月	2日	郡山市「少年の主張」コンクール発表会 / 場所：郡山市立中央公民館
2月	3日	公益社団法人須賀川青年会議所 新年会 / 場所：グランシア須賀川
2月	4日	第1回会員会議所会議 / 場所：東京第一ホテル 新白河
2月	5日	新春のつどい / 場所：東京第一ホテル 新白河
2月	9日	第2回正副会長会議 / 場所：WEB
2月	9日	一般社団法人会津坂下JC新年会 / 場所：わたや
2月	10日	一般社団法人原町青年会議所 新年会 / 場所：ホテル丸屋グランデ
2月	10日	一般社団法人田村青年会議所 新年会 / 場所：迎賓館辰巳屋
2月	14日	郡山飲食業組合創立90周年記念式典・祝賀会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
2月	15日	第1回臨時常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
2月	15日	第2回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
2月	17日	第1回OB役員会並びに現役役員との懇談会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
2月	20日	2月例会 / 場所：郡山市郡山公会堂
2月	22日	第3回郡山市制施行100周年記念事業プロモーション委員会 / 場所：郡山市役所本庁舎2階正庁
2月	25日	2023年度 新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナー開催（～26日） / 場所：ホテル華の湯
3月	1日	第3回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
3月	3日	サマーフェスタ反省会 / 場所：郡山商工会議所

3月	7日	福島県青年部団体連絡協議会 第13回特別交流会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
3月	8日	カーボンニュートラル基礎講習 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
3月	9日	第3回正副会長会議 / 場所：WEB
3月	10日	学校法人こおりやま東都学園 郡山健康科学専門学校卒業式 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
3月	10日	JC説明会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
3月	15日	第3回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
3月	16日	第58回郡山市こどもまつり第2回実行委員会 / 場所：郡山市役所西庁舎5階
3月	18日	郡山市総合地方卸売市場活性化セミナー / 場所：市民交流プラザ 大会議室（郡山市駅前一丁目11番1号 ビッグアイ7階）
3月	20日	カーボンニュートラルセミナー ～郡山の現状とこれから～ / 場所：郡山市郡山公会堂
3月	25日	理念共感セミナー / 場所：郡山市労働福祉会館 大ホール
3月	27日	3月例会 / 場所：郡山市郡山公会堂
4月	1日	こおりやま東都学園入学式 / 場所：ホテルハマツ
4月	2日	郡山相撲協会定期総会・懇親会 / 場所：相撲茶屋今泉
4月	2日	JCI猪苗代創立45周年記念式典並びに祝賀会 / 場所：ホテルリステル猪苗代
4月	3日	第4回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
4月	6日	第3回会員会議所会議 / 場所：ネーブルシティもとみやオーブ
4月	8日	第32回開成山公園桜のライトアップ点灯式 / 場所：開成山公園
4月	10日	会頭公式訪問 / 場所：東京第一ホテル新白河
4月	11日	第1回会員拡大会議 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
4月	12日	議案書セミナー / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局+WEB
4月	13日	サマーフェスタ IN KORIYAMA 実行委員 / 場所：郡山商工会議所会館6階
4月	13日	第4回正副会長会議 / 場所：安らぎの宿 双葉の杜
4月	13日	広報誌対談 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
4月	14日	第2回臨時常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
4月	14日	第4回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
4月	15日	しゃくなげカップ2023 / 場所：矢吹ゴルフ倶楽部
4月	18日	郡山市青少年健全育成推進協議会理事会 / 場所：ニコニコこども館（郡山市こども総合支援センター）
4月	18日	郡山商工会議所青年部「令和5年度定時総会懇親会」 / 場所：郡山ビューホテルアネックス 4階 花勝見

4月	19日	2023年度4月例会並びにチェリーパーティー / 場所：郡山ビューホテルアネックス
4月	23日	It's アカデミー♪「第1回 The ダイバーシティ♪」 / 場所：二本松市民交流センター
4月	23日	郡山市文化団体連絡協議会総会 / 場所：ホテルハマツ
4月	24日	第62回「久米賞・百合子賞」第1回実行委員会 / 場所：郡山市役所 5階教育委員会室
4月	28日	郡山うねめまつり実行委員会第1回魅力向上作業部会 / 場所：郡山商工会議所
4月	28日	第5回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
5月	1日	日本遺産「一本の水路」プロモーション協議会総会 / 場所：郡山市役所本庁舎2階
5月	5日	第58回郡山市こどもまつり / 場所：郡山カルチャーパーク
5月	8日	郡山商エスポーツ協会総会 / 場所：安積総合学習センター
5月	9日	第4回会員会議所会議 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
5月	10日	郡山うねめまつり実行委員会企画部会 / 場所：郡山商工会議所
5月	10日	JCI ASPACジャカルタ大会（～13日） / 場所：ジャカルタ
5月	14日	第26回わんぱく相撲 郡山場所 / 場所：郡山相撲場
5月	15日	第5回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
5月	17日	副会長臨時意見交換会 / 場所：郡山青年会議所事務局
5月	21日	5月例会並びに体験交流会～グリーン・コミュニティ・こおりやま～開催 / 場所：青少年会館
5月	23日	郡山市商店街連合会総会懇親会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
5月	23日	第62回「久米賞・百合子賞」審査員顔合わせ会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
5月	24日	郡山商工会議所女性会総会懇親会 / 場所：郡山ビューホテル
5月	26日	福島県中小企業家同友会定時総会懇親会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
5月	26日	「違法客引きゼロパトロール」 / 場所：集合場所：郡山駅前交番
5月	27日	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会福島予選大会 / 場所：福島空港公園・緑のスポーツエリア
5月	27日	2023郡山市まちなか子ども夢駅伝競走大会 / 場所：郡山市なかまち夢通り周辺周回コース
5月	31日	第1回臨時会員会議所会議 / 場所：WEB
6月	1日	第1回法人格検討委員会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
6月	1日	第6回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
6月	2日	郡山市国際交流協会理事会・通常総会 / 場所：郡山市総合福祉センター
6月	3日	郡山JCじゃがいもクラブ / 場所：矢吹ゴルフ倶楽部

6月	8日	郡山うねめまつり「うねめ踊り流し」参加団体説明会 / 場所：郡山市労働福祉会館
6月	10日	公益社団法人日本青年会議所2023年度福島県予選野球大会 / 場所：さつき公園第一野球場
6月	10日	第26回わんぱく相撲福島ブロック大会 / 場所：会津相撲場
6月	11日	郡山農学校総会懇親会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
6月	12日	08元気会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
6月	13日	肢体不自由児後援会常任理事会・総会 / 場所：福島県立郡山支援学校
6月	13日	第5回正副会長会議 / 場所：WEB
6月	14日	郡山商工団体暴力追放対策懇談会・郡山地区警察官友の会合同総会 / 場所：郡山商工会議所会館6階
6月	14日	福島県立聴覚支援学校児童生徒後援会役員会総会 / 場所：福島県立聴覚支援学校
6月	15日	第6回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
6月	18日	公益社団法人二本松青年会議所創立50周年記念式典 / 場所：二本松御苑
6月	19日	第4回郡山市制施行100周年記念事業プロモーション委員会 / 場所：郡山市役所本庁舎2階正庁
6月	22日	6月例会 / 場所：郡山市郡山公会堂
6月	23日	JC説明会 / 場所：清水台地域公民館
6月	24日	三井陽一郎氏講演会～JCのあるべき姿とやるべきこと～ / 場所：ミューカルがくと館
7月	1日	第5回会員会議所会議 / 場所：猪苗代
7月	1日	福島ブロック大会in猪苗代 / 場所：猪苗代
7月	1日	福島ブロック大会in猪苗代 大懇親会 / 場所：猪苗代湖天神浜オートキャンプ場
7月	2日	福島ブロック大会in猪苗代 アカデミー委員会第3回委員会「福島ブランド」発表会 / 場所：猪苗代町体験交流館「学びいな」
7月	2日	福島ブロック大会in猪苗代 メインフォーラム / 場所：猪苗代町体験交流館「学びいな」
7月	2日	福島ブロック大会in猪苗代 記念式典 / 場所：猪苗代町体験交流館「学びいな」
7月	3日	第7回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
7月	6日	第2回会員拡大会議 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
7月	6日	郡山うねめまつり「うねめ踊り流し」参加団体説明会 / 場所：郡山市労働福祉会館
7月	7日	特別企画展「わたしのワンピース」西巻茅子展内覧会 / 場所：郡山市文学資料館
7月	12日	中間会計監査・事業監査 / 場所：(公社)郡山青年会議所事務局
7月	14日	第7回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
7月	15日	わくわくチャレンジキャンプ 事前説明会 / 場所：郡山市労働福祉会館 3階大ホール

7月	15日	公益社団法人白河青年会議所創立65周年記念式典 / 場所：東京第一ホテル新白河
7月	18日	明るい祭礼推進委員会 監査 / 場所：事務局
7月	20日	7月例会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
7月	22日	サマーコンファレンス2023（～23日） / 場所：横浜
7月	24日	うすい百貨店ファンクラブ総代会 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
7月	25日	サマーフェスタ in KORIYAMA2023 全体説明会 / 場所：郡山商工会議所会館
7月	26日	郡山市明るい祭礼推進委員会総会 / 場所：郡山市役所西庁舎5階
7月	28日	サマーフェスタ in KORIYAMA2023（～30日） / 場所：郡山駅前大通り
7月	29日	公益社団法人福島青年会議所創立60周年記念式典 / 場所：エルティウエディング・パーティ エンポリウム
7月	30日	第38回わんぱく相撲全国大会 / 場所：両国国技館
8月	1日	第8回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
8月	4日	うねめまつり ミスうねめパレード（葛城王パレード：郡山JC芝田理事長） / 場所：郡山駅前大通り
8月	5日	ミスうねめパレード（葛城王パレード：奈良JC宮下理事長） / 場所：駅前大通り
8月	5日	うねめまつり踊り流し参加 / 場所：駅前大通り～市道大町大槻線
8月	10日	第8回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
8月	11日	わくわくチャレンジキャンプ（～12日） / 場所：福島県郡山自然の家
8月	21日	定款及び諸規則に関する勉強会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
8月	24日	第6回郡山市制施行100周年記念事業プロモーション委員会 / 場所：郡山市役所本庁舎2階正庁
8月	25日	8月例会 / 場所：郡山市郡山公会堂
8月	28日	第21回郡山の秋祭り・子供相撲大会実行委員会 / 場所：安積国造神社神社会館
8月	28日	第1回財務及び法人格に関するセミナー / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
8月	30日	第9回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
9月	1日	郡山芸妓組合「感謝の夕べ」 / 場所：郡山ビューホテルアネックス
9月	1日	東北青年フォーラムin北上（～3日） / 場所：北上
9月	5日	第6回正副会長会議 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
9月	6日	第62回「久米賞・百合子賞」読み合わせ会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
9月	7日	郡山市違法客引きゼロ対策協議会総会 / 場所：郡山市役所本庁舎2階
9月	8日	JC説明会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局

9月	9日	第62回「久米賞・百合子賞」応募作品振り分け作業 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
9月	11日	第2回財務及び法人格に関するセミナー / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
9月	15日	郡山うねめまつり実行委員会企画部会 / 場所：郡山商工会議所
9月	15日	第9回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
9月	17日	JCカップ全国大会（～18日） / 場所：Jヴィレッジ
9月	17日	福島の「地宝のMIRYOKU」フェス / 場所：Jヴィレッジ
9月	19日	郡山うねめまつり実行委員会 第2回魅力向上作業部会 / 場所：郡山商工会議所会館
9月	20日	9月例会・定時総会 / 場所：ビューホテルアネックス
9月	25日	第62回「久米賞・久米賞」第2回実行委員会 / 場所：郡山市役所 多目的ホール
9月	27日	第21回郡山の秋祭り・子供相撲大会 / 場所：安積幼稚園遊戯室
9月	29日	奈良公式訪問（～30日） / 場所：奈良
9月	29日	第6回会員会議所会議 / 場所：二本松御苑
10月	2日	第10回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
10月	6日	全国大会in東京（～8日） / 場所：東京
10月	6日	特別企画展「没後8年石井研堂」内覧会 / 場所：郡山市文学資料館
10月	7日	こおりやま産業博開会式 / 場所：ビッグパレットふくしま 多目的展示ホール前「ホワイエ」
10月	10日	第7回正副会長会議 / 場所：WEB
10月	11日	OB元気会 / 場所：郡山ビューホテル
10月	12日	秋期道路整備セミナー / 場所：郡山ビューホテルアネックス
10月	16日	第10回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
10月	17日	小学生の税に関する標語審査会 / 場所：郡山法人会会館
10月	19日	10月例会 / 場所：郡山市郡山公会堂
10月	20日	第16回暴力団追放郡山市民大会 / 場所：郡山市役所 特別会議室
10月	21日	第62回「久米賞・百合子賞」最終審査会 / 場所：郡山市労働福祉会館
10月	22日	カーボンニュートラルエキスポinこおりやま / 場所：JA福島さくら農産物直売施設めぐりあ
10月	27日	第7回会員会議所会議 / 場所：いわき
10月	27日	郡山市違法客引き対策ゼロ協議会パトロール / 場所：郡山駅前交番集合
10月	30日	第3回会員拡大会議 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局

10月	31日	YEG×JC会談 / 場所：事務局
11月	2日	第8回正副会長会議 / 場所：WEB
11月	2日	県議会選挙啓発のお願いで県中地方振興局局長 来局 / 場所：事務局
11月	2日	第11回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
11月	11日	YEG×JC会談～Clean My Town～ / 場所：駅前・朝日町
11月	13日	世界会議（～18日） / 場所：チューリッヒ
11月	13日	第11回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
11月	15日	県中地方振興局主催講演会「気候変動と地球温暖化防止活動」 / 場所：福島県環境創造センター交流棟
11月	15日	小学生の税に関する標語表彰式 / 場所：ホテルハマツ
11月	22日	第46回郡山市青少年健全育成推進大会 / 場所：郡山市立中央公民館
11月	23日	11月例会並びに第62回「久米賞・百合子賞」授賞式 / 場所：郡山市民プラザ7階 大会議室
11月	25日	郡山東ライオンズクラブ結成40周年記念式典 / 場所：ベルヴィ郡山館
11月	26日	第8回会員会議所会議 / 場所：福島
11月	26日	アカデミー委員会閉校式 / 場所：エルティウェディング・パーティ エンポリアム
11月	26日	福島ブロック協議会卒業式 / 場所：エルティウェディング・パーティ エンポリアム
11月	26日	福島ブロック協議会大懇親会 / 場所：エルティウェディング・パーティ エンポリアム
11月	28日	第12回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
12月	1日	第9回正副会長会議 / 場所：WEB
12月	1日	ビッグツリーページェント・フェスタ IN KORIYAMA オープニングセレモニー / 場所：郡山駅前西口広場
12月	2日	「家庭教育応援リーダー育成事業」県中域内家庭教育支援者研修会 / 場所：郡山市労働福祉会館
12月	9日	郡山青年会議所卒業式 / 場所：郡山ビューホテル
12月	15日	第12回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 ※WEBハイブリッド開催
12月	19日	12月例会 / 場所：郡山ビューホテル
12月	24日	郡山農学校忘年会 / 場所：郡山ビューホテル
12月	26日	第59回郡山市こどもまつり実行委員会 / 場所：郡山市役所西庁舎5階
1月	10日	2023年度業務監査・会計監査 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
1月	12日	第13回常任理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局
1月	12日	第13回理事会 / 場所：公益社団法人郡山青年会議所事務局 (予定)

常任理事報告

副理事長報告

副理事長 矢吹 瞬

本年度、副理事長という重責をお預かりさせていただきました。芝田理事長の掲げる「Challenge a new era, and change the future!～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」のスローガンのもと、郡山青年会議所の歴史と伝統をはじめ、経験年数の少ない多くのメンバーに対して、私自身の先輩から受け継いだ知識と経験を伝えてまいりました。同時に、私自身それらの重みに改めて気づかされた1年でもありました。

本年は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられるなど、社会全体が急速に変化した1年でした。この新しい世の中において、やるべきことに向き合い挑みながら多くの事業を現地で開催することでメンバー全員が共に成長し、大きな前進を遂げた1年であったと感じております。そしてこの経験がLOMのこれから先に必ず繋がると確信しております。

最後になりますが、このような気づきと学びの機会をいただきました芝田理事長をはじめといたしますメンバーの皆様に感謝申し上げ、副理事長報告とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長 佐久間 悠治

本年度は「Challenge a new era, and change the future! ～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」のスローガンのもと、副理事長として全力で運動に取り組んで参りました。

先輩方が積み上げてこられた郡山青年会議所の歴史と伝統を、私自身の経験も含めメンバーと対話をする中で志と想いを伝えてまいりました。また、持続可能な組織を目指し、一人ひとりが当事者意識を持って組織の課題に向き合い、地域に求められる組織になるために挑戦し、礎を作ることができた一年となりました。

最後となりますが本年度副理事長という重責を与えていただきました芝田理事長をはじめ現役会員の皆様に感謝するとともに、次年度もメンバー一人ひとりと向き合い、議論を重ね、共に地域の課題に挑戦することを約束し報告とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長 織田 陵平

本年度は「Challenge a new era, and change the future!～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」のローガンのもと、夢を描き何事にも前向きに挑戦していく姿勢を示していこうと行動してまいりました。2023年5月に新型コロナウイルス感染症も「5類感染症」に分類され、制限されていたものがほぼ取り払われ多くの事業を実地開催することができました。「明るい豊かな社会」の実現のために、時代に即した形での運動を議論を重ね構築し展開することで、新しい時代に挑戦する気概を持つことができた一年となりました。また、コロナ禍以降に入会した経験年数の浅いメンバーへこれまでの経験を活かし指導してまいりましたが、この一年を振り返ると、より多くの本質的なことも伝えられたのではないかと反省しております。しかしながら、先輩方にも励まされ JAYCEE としてしっかりと行動していく意識をより一層深めることができました。今後も、これまでの経験をさらに伝えられるように精進してまいります。

結びに、副理事長という重責を与えていただきました芝田理事長をはじめ現役会員の皆様に感謝するとともに、本年度得た経験を糧に次年度組織を導いていくリーダーとして JC 運動に活かしていくことをお誓い申し上げ、報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

規則審査室長報告

規則審査室長 江崎 健太

本年度は「Challenge a new era, and change the future!～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」のスローガンのもと規則審査室一同一丸となって公益法人格を有する組織として健全で円滑な運営を執り行ってまいりました。

本年度の主な活動としては、専務理事の業務全般を補佐するとともに、諸会議を円滑に実施できるよう各委員会の議案上程スケジュールの管理、新しく採用したアジェンダシステムの運用及びコンプライアンスの確認等を実施しました。

本年度の特筆すべき活動としては、各法律の改正に鑑みた平成 28 年以來の定款改正に伴い必要な作業を行ったほか、諸規則についても社会情勢に合わせた改正に向けて必要な作業を行いました。また、持続可能な公益法人として組織を運営していくために必要な知識を全てのメンバーが共有することを趣旨として、財務及び法人格に関するセミナーを実施し、各メンバーが当事者意識をもって組織運営にあたる土台を整えました。

この 1 年間、常任理事として多くの機会を与えていただきました。貴重な経験の機会を与えていただきました芝田理事長をはじめとする全ての現役メンバーの皆様に厚く御礼申し上げます。

室長報告

指導力開発室室長 武田 淳

指導力開発室におきましては、2023年度は持続可能な組織開発委員会と広報渉外委員会の2つの委員会で構成され、例年それぞれ委員会に託されている役割に加えて、新たな志と手法を用いて1年間取り組んでまいりました。

持続可能な組織開発委員会では従来の会員拡大について、メンバーそれぞれがより能動的に拡大運動をできるように明確な数字目標を定め、1年間拡大運動の進捗情報や候補者情報の共有を行い、さらにはメンバー一人ひとりの会員拡大の意識醸成を図りました。会員拡大会議ではメンバー間で意見を出し合い価値観を共有するバズセッションも取り入れたことでLOMが一体感を持って拡大運動を行うことができました。2月に開催された新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナー、3月に開催された理念共感セミナーでも拡大目的達成に向けて一貫したテーマをもとに1年間活動を行ってきました。年々LOMメンバーの在籍年数が短くなってきていることから、従来行ってきた理念の承継が十分にできなくなっている点をこれらの取り組みで改善することで、持続的な青年会議所運動へつなげることができたと考えており、委員会だけでなく、LOMメンバーのご理解とご協力があったからこそ、1年間持続可能な組織開発委員会が活動を続けてこれたと思います。

広報渉外委員会では、共感の輪を広げていくことで最高の未来を実現していくことを目的に1年間LOMの運動・活動を発信してきました。まず本年度は体外、体内向けの広報誌をそれぞれ発行することで、LOMの運動を発信するだけでなく、近年様々な外的要因によるメンバー間の交流減少から、以前に比べると希薄化していたメンバー間の絆をより強固にする一助にすることができたと思います。さらに年間を通してフォトコンテストを行うことで、広報活動を委員会単独で行うものではなく、メンバー全員で行う意識醸成に繋がった取り組みになりました。6月に開催された資質向上セミナーでは、運動の最大化につなげていくためにJCの本質とあり方をメンバーで学び、共有する場を設け、今後のLOM運動の効果の最大化へ繋がる1歩になったと考えています。11月には郡山商工会議所青年部様との合同事業としてYEG×JC会談～Clean My Town～を開催しました。単に合同事業を行うだけでなく、今後の両団体としての展望や協力体制などをメンバーや体外の方々へ発信、共有してから事業を行うことで、より本質的で効果的な事業とすることができました。

本年1年間で2つの委員会が自分たちの限界を少しずつ超えながら、LOMのため、地域のために運動・活動を続けていくことができました。この理念は今後のLOMへも引き継がれていくことと思います。多くの周りの方々に支えられて今日まで運動・活動できたことへ感謝申し上げ、指導力開発室の報告とさせていただきます。

1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

未来創造室室長 山本 将司

2023 年度を振り返ると各々の委員会の特色がでた 1 年になりました。未来創造室では芝田理事長の掲げる「Challenge a new era, and change the future!～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」のスローガンのもと、まちづくり事業と青少年育成事業をチャレンジして参りました。

高橋委員長をはじめとする、まちづくり委員会では「カーボンニュートラル」をテーマに、会員一人ひとりがカーボンニュートラルのための取り組みや、環境に配慮した経済循環について学び、脱炭素社会の実現に向けた当事者意識を高めることを目的とし、まずは 3 月に郡山市の取り組みについてメンバーがしっかりと理解するべく「カーボンニュートラルセミナー」を開催しました。品川市長からはカーボンニュートラルに限らず郡山市の抱える様々な課題もお話しいただき、郡山市とメイン事業への連携を図ることができました。メイン事業でありますカーボンニュートラルエキスポ in こおりやまでは企業や行政、学生団体の皆様と協働して市民一人ひとりができる様々な取り組みを発信させていただき、郡山女子大の学生によるパネルディスカッションや、講演には東北大学の中田俊彦教授をお招きしカーボンニュートラルについて講演をいただきました。大規模な設備投資等だけがカーボンニュートラルではなく、誰でもカーボンニュートラルに挑戦できるという私たちが思い描いていたことを学んだ機会になりました。

また、第 62 回「久米賞・百合子賞」では応募する学生の応募数及び応募校数を増やしていく試みとして、各学校の校長先生にも連携をしたうえで案内を行い「久米賞・百合子賞」の歴史やこの賞の想いを伝え、近年応募がない学校からも応募をいただけるように周知を行うことができました。今回応募作品が 312 作品という多くの応募作品の中から百合子賞においては小説、詩の両方で正賞を出すことができました。あわせて『久米賞・百合子賞』授賞式典での記念講演には稲垣史生先生をお招きし「激変する地球環境と人間活動との関わり～私たちはどこへ向かうのか～」というテーマで講演を行いました。稲垣先生の地球微生物学の研究や、海洋掘削研究への想いを受賞された生徒に向けて熱く講演していただきました。

佐久間委員長が率います青少年育成委員会では、子どもたちを取り巻く生活環境に焦点をあて活動に邁進してまいりました。昨今の新型コロナウイルス感染症流行の長期化により、子どもたちの体力の低下および協調性・積極性の欠如などがみられるようになりました。今年は事業を通して子どもたちが、仲間との友情を育むことで周りを巻き込み行動ができる事業を構想してまいりました。

今回の「わんぱく相撲」では、わんぱく相撲郡山場所、福島ブロック場所を勝ち抜いた片柳

雄人君、佐藤悠翔君、鈴木礼煌君の3名で郡山チームとなり引率してまいりました。郡山チームの取り組みとなると引率メンバーの応援にも熱がこもり、まるで我が子の取り組みを見ているかのような状態でした。参加者全員が堂々とした取り組みをしており、参加した3名にとっても貴重な経験、思い出になったのではないかと思います。

また8月にはメイン事業である「わくわくチャレンジキャンプ」を開催致しました。「わくわくチャレンジキャンプ」は本年度、青少年育成委員会が年頭から委員会方針に基づきメイン事業として計画しており、1泊2日で参加児童58名、学生ボランティア13名、郡山青年会議所メンバー20名弱での宿泊を伴う事業となりました。参加児童も最初は慣れない環境で緊張が見え、グループの輪に入ることができなかった児童がおりましたが、一緒に活動していく中で緊張の顔から笑顔へ変わり、元気に班に馴染み各ファンクションに取り組んでおりました。最後には参加者全員が仲良くなり別れを惜しみ、「来年も参加したい」「参加してよかった」など多くの嬉しい言葉をいただく事ができました。

両委員会でこなしてきた事業の根幹には『チャレンジ』がありました。芝田理事長が掲げた「Challenge a new era, and change the future!～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」の言葉の意味通り、多くの子どもたちとともに成長、学びを現役会員全員で体現できたかと思えます。子どもたちが学んだこの記憶が大人になったとき、黄金の思い出となることを確信しております。最後に芝田銀平理事長をはじめとします現役メンバーの皆様。一年間、本当にありがとうございました。

2023 年度 総務委員会

委員長 飯島 悠希
副委員長 新田 義幸
副委員長 菅野 展寛
副委員長 佐藤 広幸

★委員会スローガン

守破離

～一人ひとりの成長が地域の未来を創る～

★事業方針

総務委員会は郡山青年会議所が明るい豊かな社会の実現に向けて行う運動・活動を支えるLOMの根幹となる委員会である。郡山青年会議所は会員数と平均在籍年数の減少という長年抱える課題に加え、コロナ禍の影響によるJC運動・活動の変容や経験の浅いメンバーが過半数を占める現状のなかで夢描く未来に向かい新しい時代に挑戦していく。そのためには総務委員会一同が円滑な運営に寄与し、組織が持続するために必要とされる一員としての成長を図る必要がある。

新しい生活様式が普遍化し多様性が受け入れられる時代のなかで郡山青年会議所が発展し続けるために、総務委員会は例会や時流に沿った各種会議、様々な事業の設営を確実に行うことで組織を支える。様々な価値観と志をもって入会した新入会員は、各事業に積極的に参加することで青年会議所運動・活動の目的や基本を理解し、OB会員との交流や姉妹JC締結から半世紀を迎えようとする奈良青年会議所との交流を通して、先輩方が築いてきた歴史と伝統やおもてなしの心を学ぶ。スタッフは新入会員への指導を通して初心に立ち返り、率先垂範を通して自らを見つめ直すことで共に成長する。

総務委員会のメンバーは経験を通して「修練」「奉仕」「友情」のJC三信条を理解する。そして、様々な学びと自己研鑽からJAYCEEとしての気概をもち、柔軟で新たな発想をもとに変化の起点となって地域のために活躍する人財へと成長することができる。郡山青年会議所を総務委員会が支えることで本年度の運動・活動が円滑に行われ、事業目的が達成されることによって組織の更なる発展と地域の未来に繋がる。

★事業計画〔開催予定月〕

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 新入会員の教育・指導 | 〔通年〕 |
| 2. 例会の設営 | 〔通年〕 |
| 3. 文書発送 | 〔通年〕 |
| 4. 新年会の設営 | 〔1月〕 |
| 5. 定時総会の設営 | 〔1月・9月〕 |
| 6. 会員親睦事業の企画運営 | 〔5月〕 |
| 7. 福島ブロック大会 in 猪苗代参加引率 | 〔7月〕 |
| 8. うねめまつり参加引率 | 〔8月〕 |
| 9. 奈良公式訪問 | 〔9月〕 |

- 10. 卒業式の企画運営 [12月]
- 11. 常任理事会、理事会等諸会議の設営と運営、その他庶務に関する業務
- 12. 総会資料、会員名簿、名刺の作成
- 13. 会員拡大に関する情報収集 [通年]
- 14. その他理事長所信に基づき行なう事業

★事業報告

1. 新入会員の教育・指導

2023年度は、2019年以来、各種会議や事業、遠征事業が実地開催に戻った1年となった。例会ではセレモニーや設えの部分において十分に教育を施すことができた。また、(一社)奈良青年会議所の皆様を迎えた、うねめまつり踊り流しへの参加や、例会後の会員親睦会などの様々な機会において絆を深めることができた。基本的な能力や作法が身に付き、能動的に行動することで、今後の青年会議所運動・活動において相応しい人材へと成長することができた。

2. 例会の設営

①1月例会

2023年度最初の例会は、多くの現役会員の参加もあり、緊張感を持って取り組むことができた。芝田理事長から「Challenge a new era, and change the future!～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」のスローガンのもと、本年度への想いの詰まったご挨拶をいただいた。その後の会務報告では各委員長より本年度のスローガンや事業方針への意気込みをお話しいただくことで意識の共有を図り、出向者報告においても情報共有を図ることができた。

②2月例会

新入会員が初めてセレモニーを担当する例会ということもあり、良い緊張感を持ち総務委員会が一丸となって2月例会に臨むことができた。タイムスケジュールに関しても、皆様のご協力のお陰でほぼ計画通りに進めることができた。

③3月例会

総務委員会が一丸となって3月例会に臨むことができた。タイムスケジュールに関しても、事前の現地調査を含めて準備を行い設営することができ、大きなミスも見受けられず、皆様のご協力のお陰でほぼ計画通りに進めることができた。

④4月例会

OB会会員の先輩方との交流の場である4月例会・チェリーパーティーは、新入会員や現役メンバーにとって重要な事業であり、多くの先輩方から様々なお話を伺うことで有意義な時間とすることができた。普段とは異なる会場での開催であったが、皆様のご協力のお陰で大きな問題もなく無事に開催することができた。

⑤5月例会

ご家族やお子様でも参加可能な設えで開催し、多くのメンバーにご参加いただくことができた。普段とは異なる会場での開催となったが、総務委員会全員で設営と運営にあたり、委員会で一丸となって取り組んだ初めての事業となった。

⑥6月例会

福島ブロック大会開催前最後の例会であったことから、ブロック出向者一丸となった会務報告をいただき、大会参加への意欲向上に繋がる例会になった。活動から半年の節目となる6月例会であるが、特段問題もなく進行し、無事に終えることができた。ドレスコードを守っていない参加メンバーがいたことが残念であったが、今後の例会においても慣れから生じ

る気の緩みが発生しないよう、引き続き委員会では凡事徹底して設営に取り組み、LOM 全体で目的意識を共有する場としていきたいと感じることができた例会となった。

⑦7 月例会

7月例会は次年度理事長候補者への当選証書授与が行われる特別な例会であり、多くの先輩方をお迎えするなかで緊張感をもって設営することができた。普段とは異なる雰囲気です設営と進行に携わることで、総務委員会としても良い経験となる例会であった。

⑧8 月例会

8 月例会は例会のみの設営となったが、新入会員のセレモニーや時間調整などメリハリを持って取り組むことができた。また、東北青年フォーラムinきたかみが間近に迫っていたこともあり、理事長挨拶をはじめ会務報告や出向者報告を通して大会情報の共有を図り、参加意欲の向上を図ることができた。

⑨9 月例会

9 月例会では、OB の先輩方にも冒頭からご参加いただき、総務委員会としてもいつも以上に緊張感をもって臨んだ例会となった。事前に現地調査やリハーサルをしっかりと重ね設営を行い、その後に控える9月定時総会にスムーズにつなげることができた。

⑩10 月例会

10 月例会は本年度と次年度が交錯する多忙な時期のなかでの開催ではあったが、多くのメンバーに参加いただくことができた。本例会が本年度最後の単独例会であり、設営やセレモニーなどリハーサル含めて確認しながら準備を行うことができた。また、残りわずかとなった本年度を大成功へと導き、次年度へ繋げる意識がより高まったと感じた。

⑪11 月例会

総務委員会としては 11 月例会の設営及び運営を担当させていただいたが、全体的に問題なく進行することができた。例会後に行われた「久米賞・百合子賞授賞式」においては、各自が能動的に行動することの重要性を改めて感じさせられた機会となった。

⑫12 月例会

2023 年度最後の例会ということで、多くのメンバーと OB の先輩方にご出席、ご協力いただき、厳かな雰囲気の中で開催することができた。総務委員会としては、本年度最後の集大成とすべく緊張感をもって設営を行った。新入会員やスタッフ自らが主体的によく考え取り組み、1 年間の成長を感じることができた例会であった。

3. 文書発送

毎月 15 日を基本とし、OB 会会員と現役会員に事業案内などの文書や広報誌を発送した。

4. 新年会の設営

3年ぶりの飲食を伴う新年会を開催し、多くのご来賓と OB の先輩方をお迎えして芝田理事長体制を披露し、郡山青年会議所の運動方針を対外へ広く発信することができた。メンバー一人ひとりが能動的に行動し、郡山青年会議所らしいおもてなしで、大きな混乱もなく皆様をお迎えすることができた。

5. 定時総会の設営

① 1月定時総会

1月定時総会では、土屋 繁太郎 議長、紀乃 知佳 副議長による議事進行のもと、2022年度の事業報告と決算報告等の議案を無事全員賛成にて審議可決をいただいた。設営においては確認不足から来るミスも見受けられたため、事前準備の重要性を改めて実感した。多くの現役会員の皆様にご協力いただき無事に開催することができた。

②9月定時総会

9月定時総会では、渡邊 千代子 議長と土屋 繁太郎 副議長の進行のもとで、2023年度の補正予算、定款改正、会員資格規則改正、役員報酬規則制定、2024年度の役員・監事選任の、例年の2倍となる6議案を慎重審議いただいた。スムーズな議事進行もあり、滞りなく審議可決いただくことができた。また、次年度役員紹介をさせていただき、次年度の運動・活動への弾みをつけることができた。総務委員会一丸となって入念な現地調査やリハーサルを行って運営・設営を行い、皆様のご協力をもって無事に終わることができた。

6. 会員親睦事業の企画運営

5月例会と同日開催した会員親睦事業の「体験交流会～グリーン・コミュニティ・こおりやま～」においては、例会からご家族やお子様も参加可能な設えを取り入れた。5月例会終了後に開催した体験交流会においては、コミュニティ福島様に多大なるご協力をいただき、開催することができた。メンバーの皆様が、ご家族と共に再生可能エネルギーや環境問題、リサイクルについて楽しく学びあうことによって家族の思い出となり、当日の参加や経験を通して本年度のJC運動・活動に対して更なるご協力をいただける機会とした。当日はマスク姿から解放された子どもたちの笑顔や真剣な表情を通して、今後に向けた多くの学びとヒントをいただくことができた。総務委員会全員で設営と運営にあたり、委員会で一丸となって取り組んだ初めての事業となった。

7. 第53回 福島ブロック大会 in 猪苗代参加引率

近隣の猪苗代での開催ということで、二日間にわたり多くのメンバーにご参加いただくことができた。また、柳沼次年度ブロック会長予定者を、多くのメンバーで送り出すことができた。アカデミー委員会の発表においては、ブロック大会のスローガン「Regenerative」を感じさせてくれる立派な発表であり、各セクションにおいて多くの出向者の活躍を拝見し応援するとともに、様々な点で気付きと学びの多いブロック大会であった。大会参加においては、皆様にご協力をいただいたおかげで大きなトラブルもなく引率を行うことができた。今回の引率での経験を今後のJC運動・活動に活かし、参加したメンバーが大会への参加を通して「Regenerative」を意識して行動するきっかけとなっただけにと感じた。

8. うねめまつり参加引率

本年度は、姉妹JC締結50周年、うねめまつり開催60周年、郡山市制施行100周年と、末尾に0が揃う2024年へのステップとなる機会と捉え、改めて歴史に目を向け学び直す機会としていただく内容で一日の流れを構築した。2019年以来の二次会までの設営となることもあり、委員会として「悲観的な準備と楽観的な行動」をテーマに入念な準備を行って当日に臨んだ。本番は想定外な出来事も多々あり、その都度臨機応変に対応する委員会スタッフに頼もしさや成長を感じる一日となった。また、今回新たな取り組みとして導入した内容についても奈良JC様からお褒めの言葉を多数いただくことができた。

9. 奈良公式訪問

当日は大安寺からエクスカーションが始まり、日本唯一の饅頭神社である林神社への訪問、その後の采女祭、懇親会、そして翌日のお見送りに至るまで、奈良JCの皆様にご心温まるおもてなしをいただいた。2日間の行程を通して、参加メンバーと新入会員同士の絆もより深いものとなった。姉妹JC締結50周年という節目を来年に控え、互いの友情を一層深

めることができた。(一社)奈良青年会議所の皆様のおもてなしには多くの学びがあり、今回得た気づきと学びを活かしていきたいと感じる機会となった。

10. 卒業式の企画運営

JC 運動・活動を通して、共に切磋琢磨し郷土の発展に貢献された 7 名のご卒業生に敬意と感謝を伝える機会を設け、また、ご卒業生にも自身の JC 運動・活動を振り返り、卒業後も次のステージでご活躍していただくための機会とすべく開催した。多くのメンバーの皆様と OB の先輩方にご参加いただき盛大に開催することができた。設営においては、パソコンのエラーや確認ミスが見受けられる部分もあり、事前準備の重要性を感じた機会となった。

11. 常任理事会、理事会等諸会議の設営と運営、その他庶務に関する業務

毎月開催された常任理事会と理事会の設営、議事録作成を行った。

12. 総会資料、会員名簿、名刺の作成

定時総会、臨時総会、会員名簿、名刺の作成を行った。

13. 会員拡大に関する情報収集

新たな情報を持っている新入会員を中心に情報収集や声かけなどを積極的に行った。

14. その他理事長所信に基づき行なう事業

本年度の総務委員会は「守破離」をスローガンとし、委員会一丸となって JC 運動・活動に取り組んだ。

新入会員は毎月の例会設営や各種会議などを通して基本を学び、セクレタリーや各種事業などへの参加から青年会議所運動・活動の意義や目的、そしてまちづくり、ひとづくりについて学ぶことができた。スタッフも新入会員への指導を通して初心に立ち返り、率先垂範を通して自らも成長することで LOM を担える人財に成長したと実感することができた。委員会メンバー全員で、共に学び、悩み、苦しみ、考えた、二度と経験できない貴重で濃密な 1 年間を分かち合う機会を通して新たな出会いと強固な絆が生まれ、そして JC 三信条を理解したことで JAYCEE としての気概をもつことができた。そして、様々な学びと自己研鑽を通し、柔軟な発想をもって地域のために活躍できる人財に成長することができた。

本年度総務委員会メンバーが、次年度以降も郡山青年会議所の更なる発展に寄与し、運動・活動を通して社会課題を解決することで持続可能な郡山の創造に尽力してくれるものと確信している。

最後に、このような貴重な機会をいただいた芝田理事長と、1 年間総務委員会にご協力いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

2023 年度 持続可能な組織開発委員会

委員長 大越 惇平
副委員長 遠藤 典宏

★委員会スローガン

未来志向

★事業方針

近年、全国の JC では会員減少が進んでいる。様々な要因があるなか、会員拡大を継続し重点的に行っているが今や青年の所属団体の選択肢は JC だけではなく、郡山青年会議所もその例外ではない。環境や組織運営など多様な観点で持続可能性が重要視されている昨今、JC においても同じことが叫ばれており未来へ向けより持続的に運動・活動を行える体制を築くことが重要と言える。そのために郡山青年会議所でも組織の規模拡大が望まれて久しいが、ここ数年の会員数の増減に目を向けると憂慮される一面がある。郡山青年会議所が魅力的に見られ、会員候補者が自ら入会したくなるような団体となり、さらに組織的な会員拡大に取り組むことが必要である。

持続可能な組織開発委員会では、組織として会員一人ひとりが当事者として拡大活動を行うために組織理念の原点に立ち返る機会を提供する。そして JC に身を置き活動する意義と目的を改めて認識し直すことで、自ら行動しより良い組織へと変革できる人財の育成を目指す。また、OB 会会員の先輩方と積極的に交流する場を設けて郡山青年会議所の歴史や伝統に触れ理念への理解を深め、過去から学び未来につなげる意識を醸成する。

変わりゆく時代の渦中にあっても不変の理念を基に、これまで以上に率先して持続可能な地域を牽引し、明るい豊かな社会の実現のためにますます魅力的な組織になることで、想いを共にする仲間を増大につなげ新しい時代に挑戦していく。

参考:会員募集スケジュール

※面接等個別に進められることは随時対応する

★事業計画〔開催予定月〕

- 1.新入会員オリエンテーション
並びに現役会員向けセミナーの実施(室合同) [2月]
- 2.理念共感セミナー [3月]
- 3.4月例会・チェリーパーティーの企画・運営 [4月]
- 4.東北青年フォーラム in きたかみ参加引率 [9月]
- 5.OB 会会員との交流 [通年]
- 6.新入会員候補者との交流 [通年]
- 7.会員拡大及び会員拡大の取りまとめ [通年]
- 8.会員拡大に関する情報収集 [通年]
- 9.そのほか理事長所信に基づき行う事業 [通年]

2022.12月 会員拡大用候補者リスト引き継ぎ及びリスト精査

2023.1月 各会員会への候補者紹介ご依頼

リスト作成・配布開始・個別面談・面接実行
(新入会員候補者・現役会員に配布)

- 2月 個別面談・面接実行
- 3月 JC 説明会・個別面談・面接実行
- 4月 会員拡大会議・個別面談・面接実行
- 5月 個別面談・面接実行
- 6月 JC 説明会・個別面談・面接実行
- 7月 会員拡大会議・個別面談・面接実行
- 8月 個別面談・面接実行
- 9月 JC 説明会・個別面談・面接実行
- 10月 会員拡大会議・個別面談・面接実行
- 11月 個別面談・面接実行
- 12月 個別面談・面接実行・次年度への引き継ぎ

★事業報告

1.新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナーの実施

2019年以來の1泊2日での当事業の実施となった。現役会員においては、宿泊を伴うオリエンテーション事業の経験者が少ないなかでの実施であった。そのようななか運営にあたっては、どうすべきか判断に迷うことが多く、困惑する場面が多々あったが皆で協力し合い大きな問題もなく開催することができた。事前準備では2019年度以前の委員長経験者の先輩方にお話を伺いながら進めたが、それでも準備不足や不測の事態への対応が見られた。現役会員向けセミナーではJCI江津OBの平下茂親先輩をお招きし理念共感についてご指南いただいた。そのなかで行われたワークでは現役会員同士がお互いのことを知り合う貴重な機会となった。4年振りとなる郡山青年会議所ならではの新入会員のための事業であったが、新入会員、その他現役メンバーが何を感じ何を考えるのか、何を学び何を発信し伝えるか、今後の会員の意識と行動に少しでも良い影響がもたらされたのであれば担当委員会を預かる身として幸いである。持続可能な組織であるために2024年度以降の新入会員オリエンテーションがより良いものになるよう今回の経験を引き継いでいただくことを期待する。

2.理念共感セミナー

現役会員向けに事業構築をし、目的に沿った内容で実施できた。工藤勇一氏を講師に迎え、教育の分野を切り口にご講演をいただいた。アンケート結果から見て講演を受けた一人ひとりが自身に置き換え「目的」というものを的確にとらえ、課題解決に向けた思考に触れる機会となったと考える。この公演会は現役会員に向け気づきの機会とすることが目的であったが、対外参加者も迎えての設えとしJCの活動を外に向けてアピールすることも背景にあった。定員は140名と多く席を確保したところで申込者数の不足が懸念されたが事前申し込み数では満席となり、JCの運動・活動をアピールできる場を持つことができたと考えている。開催に至るまでにご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

3.4月例会・チェリーパーティーの企画・運営

OB会会員の先輩方との交流の場である4月例会・チェリーパーティーは、新入会員や現役会員にとって重要な事業であり、多くの先輩方から様々なお話を伺うことができた。アフターコロナという目の前に迫った新しい時代に挑戦するにあたり、今後のJC運動について様々なお話をいただき、有意義なチェリーパーティーとなった。成果目標は残念な結果となったが、皆様のご協力のお陰で大きな問題もなく無事に開催することができた。

4.2023年度東北青年フォーラム in きたかみ参加引率

「Next Innovation ～思いやりの心溢れる未来を目指して～」のスローガンのもと開催された本大会に参加し、岩手県北上市の「風土、伝統、文化、食」に触れることができた。一つひとつの設えにおいて人々のふれあいにより生まれる結の精神に基づく東北JCの絆を改めて感じる事ができた大会であった。各種セミナーやフォーラムに参加することでさらなる気づき・学びを得ることが出来たが、その一つひとつの設えに主管LOMの想いを感じられる大会であった。また郡山青年会議所より東北地区協議会へ出向したメンバーに向け現地の赴いた多くのメンバーの声援でしっかりと支援することが出来た。

5.OB会会員との交流

OB会会員の先輩方には年間を通し事あるごとに交流の機会をいただいた。現役会員は交流の度に気づきや学びがあったことと想像する。本年度はOB新年会から始まり、OB元気会、OB忘年会など2020年度以降コロナ禍となり開催ができなかった多くの機会をご提供いただいた。お骨折りいただいた先輩方に本報告文を借りて感謝申し上げます、また2024年度以降も引きつづき変わらぬご支援をお願い申し上げます報告とさせていただきます。

6.新入会員候補者との交流

本年度の活動のなかで、入会候補者となる方々を対象に3月、6月、9月の年3回に亘りJC説明会を行った。JCの理念や実際の活動内容、現役会員の声などの情報を提供し、入会を検討するにあたり誤った情報や偏見を元にJC加入の諾否を決定しないでいただくための機会とした。説明会後は懇親会を執り行い交流を通し機会を適切に活かし入会者を募ることができた。

7.会員拡大及び会員拡大の取りまとめ

本年度は拡大目標値を理事長自ら打ち出していただくなどして、現役会員全員で拡大に取り組む機運を高めるよう意識し活動を行なった。重点活動としては目標値に対する進捗管理とスケジュールリングを行った。一例とし、面接日を年度当初に一年分設定し各回の面接実施人数の目標値をクリアしていくようにLOM全体へと働きかけた。また、KPIに対する達成の進捗を例会の会務報告の際に行い情報を共有した。リストの更新は当委員会の全員が行えるように工夫を凝らした。アジェンダシステムを活用し当委員会以外の会員も最新のリストをいつでも見られるようにした。リストをアジェンダシステムに掲載することで不特定多数の人の目に触れないようにし、個人情報への配慮を行った。拡大活動の結果は入会者数30名の目標に対し14名と46.6%の達成率となり2024年度は66名の会員数でのスタートとなる見込みである。目標値の達成には至らなかったが計画を立て進捗を管理、確認しながら活動を行なったことで年

度末に面接や入会事務手続きが集中する事態を避けられたと考えている。年度当初から分かりきっていたことではあるが拡大活動は、委員会のみの努力では到底どうにもできないことを痛感した。多くの OB 会会員の先輩方、現役会員のご協力があったことをここにご報告申し上げる。

8. 会員拡大に関する情報収集

会員拡大会議と銘打ち 4 月、7 月、10 月の年 3 回、事業や委員会活動以外で現役会員が集い、情報収集やリストの精査を行った。このような機会を定期的に設けることで活動の進捗確認や新たな情報の収集を効率よく行うことができた。本年度は会議を定期的に作る手法をとったが理想的な LOM の姿としては、日常会話のなかで拡大の話題が自然と飛び交うことにあると考える。2024 年度以降はより組織の規模拡大に現役会員一人ひとりの意識が向くよう改善が必要であると考え。また、例年にも増して OB 会会員の先輩方にはお力添えをいただき、会員拡大活動に大きく貢献していただいたことに本報告の文面を借り感謝申し上げます。

9. その他理事長所信に基づき行なう事業

年度当初の年間スケジュール通りに事業を行い、その他事業の実施はなかった。

10. その他所見

本年度の当委員会のテーマは理念共感型の組織の規模拡大であった。そのためにまず現役会員がなぜ JC に所属し運動・活動を行うのか、また何をしたいのか、それを会員一人ひとりが改めて考える機会を設けた。また、会員同士がそれを共有し、各々が考えを整理し理解を深める機会にした。そうすることで入会候補者に対し勧誘する時にも JC の理念を語り賛同を得るような LOM の風土作りに挑戦した。時代の変遷のなか、我々が起こす運動は理念に沿っており、時代に合ったものになっているか改めて考える機会にもなった。拡大活動においては、計画立案とともに KPI に期限を設け 4 半期ごとに進捗管理を行い、それを共有することにも取り組んだ。通年、指標の達成率には遅れが生じており例会の会務報告などの機会を利用し挽回を促したが本年度は目標値の達成には至らなかった。しかしそうとは言え、拡大活動においては多くの方々にご協力をいただき、2024 年度は前年度より 4 名増でのスタートとなった。拡大の本質は人数を増やすことではなく同志を増やすことであり、一人でも多くの賛同者と共に運動の波をより大きなものにし展開することと考える。また、そうすることで組織が持続可能であることが重要であるとも言える。本年度を通し我々委員会が起こした小さな波が持続し、年々年を経過するごとに少しずつ大きな波になることを期待している。一年間ご協力いただいた OB の先輩方、現役会員、また委員会活動を支えてくれた持続可能な組織開発委員メンバーに改めて感謝申し上げます。

一年間、ありがとうございました。

2023 年度 広報渉外委員会

委員長 堀川 武尊

副委員長 鈴木 章弘

★ 委員会スローガン

笑顔発信！

★事業方針

情報化社会と呼ばれるようになり、膨大な情報量の中からAIが自動で個人の興味を引く内容を選定することが可能となった。それに伴い郡山青年会議所の発信する運動・活動も、受信者側の損得のみで情報の取捨選択をされてしまい認知も理解もされずに膨大な情報量の中に埋もれてしまう懸念がある。この情報化社会のもとでより身近に郡山青年会議所を感じてもらうためにも、我々発信者側が各発信媒体の特徴と受信者側がもつめる興味関心を理解し発信することで広く理解と共感を得る必要がある。

広報渉外委員会では広報誌を用いた発信を行うことで、電子媒体だけでは伝わりにくい世代や関係諸団体に我々の運動・活動に広くご理解をいただけるツールとして活用する。またメディアやSNSの特徴を活かし多くの人々の興味を引く視覚的な発信をきっかけに、パートナーと連携し相互発信を行うことで多くの情報元へ繋げ合い共感を生み出す。そして郡山青年会議所メンバーの熱意と想いのこもった事業で生まれる多彩な笑顔をのせて発信し、郡山青年会議所がより身近な存在であることを認識していただく一助とする。

これらの活動を通して人々に我々の運動・活動が伝播し、多くの共感者を得ることで共感の輪が広がる。そして我々の笑顔によって次の笑顔が生まれ、まちに大きな笑顔の輪が広がる最高の未来の実現へつなげる。

★事業計画

1. 新入会員オリエンテーション並びに

現役会員向け会員開発セミナーの実施(室合同) [2月]

2. 全国大会東京大会引率 [10月]

3. 広報誌発刊 [1・5・8・12月]

4. 現役会員資質向上セミナー [6月]

5. ホームページ企画・運営・管理 [通年]

6. メールアドレス・メーリングリストの管理 [通年]

7. LOM 事業の取材 [通年]

- | | |
|----------------------|------|
| 8. SNS の運営・管理 | 〔通年〕 |
| 9. 会員拡大に関する情報収集 | 〔通年〕 |
| 10. その他理事長所信に基づき行う事業 | 〔通年〕 |
| 11. 広報・渉外活動全般 | 〔通年〕 |
| 12. 相互発信の企画・運営・管理 | 〔通年〕 |

★事業報告

1. 新入会員オリエンテーション並びに現役会員向け会員開発セミナーの実施(室合同)

2019 年以來の 1 泊 2 日での新入会員オリエンテーションの実施となった。新入会員に対し各研修を通して青年会議所の運動・活動の本質を学ぶ貴重な機会とすることができた。指導力開発室として初めての室合同での事業設営であり、約 4 年ぶりの宿泊ありの事業であったこともあり、当日の確認不足や新入会員オリエンテーションを宿泊ありで経験できていないメンバーも多いことから一部設営で慌ただしくなる部分があったが、メンバー各位も各研修を通して青年会議所の運動・活動の本質を学ぶ機会とすることができた。広報渉外委員会としても指導力開発室合同開催事業ということで運営及び事業の発信を行い、メンバー間でも共有することができた。

2. 全国大会東京大会引率

「Bridge over the dreams」のテーマのもと開催された全国大会 in 東京に参加し、国際フォーラムや国家フォーラムに参加することでスケールメリットを感じる多くの学びを得る事ができた。また、式典や各セミナーに参加することで多くの学びと体験、気づきを得ることでメンバー一人ひとりが自己成長の機会に繋げることができた。

3. 広報誌発刊

本年度は笑顔発信を広報渉外委員会のスローガンとして掲げ、笑顔を通して運動・活動の魅力を発信し共感していただけるような広報誌を目指し発刊した。実際に対外事業として行われた事業では市民にインタビューを行い市民の事業の声を聴くことが出来た。

また、本年度は新しい試みとして、対内向けの広報誌と称し現役メンバー内での社内報を全 6 部ほど発刊した。実際に運営や担当として携わった委員会風景やメンバーの笑顔を載せ掲載し、一年間どのような学びの機会や経験、そして笑顔になれる思い出が出来たかの記事と写真を掲載することで団体内の強固な絆を創る事が出来た。

4. 現役会員資質向上セミナー

本年度広報渉外委員会のメイン事業となるセミナーを開催した。本セミナーは JCI 日本外部アドバイザーを務めている三井陽一郎先輩をお招きし、事業構築や運動・活動に必要な道筋や JC としてのあるべき姿ややるべきことについてご講演をしていただいた。ご参加いただいたメンバー一人ひとりが青年会議所の本質について思考する大切な機会とすることができた。

5. ホームページ企画・運営・管理

本年度のホームページ運営については、写真などを多く掲載し目で楽しみながら記事を読めるように意識し管理・運営を行った。

6. メールアドレス・メーリングリストの管理

2023 年度郡山青年会議所の対内にて使用するメーリングのアドレスの作成及び管理を行った。

7. LOM 事業の取材

本年は、事業当日だけでなく計画・準備段階の取材や撮影にも力を入れた。事前に計画・準備する背景や想いを SNS 等で発信することで共感の輪が広がるような取材と発信を行うことができた。

8. SNS の運営・管理

本年度は X(旧 Twitter)を事業中の案内などリアルタイムな発信をすることに運用し、Facebook、Instagram を事業後に運動を広く発信するツールとして管理・運営を行った。特に Instagram の運営に関して写真の投稿を多くすることで言葉だけでは分かりづらい部分での細かいメンバーの動きや表情を発信することを心掛けた。また、投稿する言葉に関しても堅い言葉だけではなく市民が内容にもめり込みやすいように話し言葉で掲載するなどの工夫も行った。掲載の頻度は近年の中で一番多く投稿はしていたがスピードがある投稿という部分で SNS のメリットであるスピード感のある情報の拡散が遅くなってしまっていたので次年度にはこの点を踏まえ引継ぎを行っていく。

9. 会員拡大に関する情報収集

本年度は、ホームページ・SNS にてメンバーが笑顔で運動・活動を行う姿を発信することで共感が広がり会員拡大に繋がるように周知を行った。また、対内広報誌では現役メンバー一人ひとりが意識するように呼び掛ける委員会記事部分を設け周知を行った。しかし、ホームページでは主だった活動が行えなかった点やそこでメンバーの意識向上が計れなかった部分においては次年度以降への引継ぎを行い、改善に繋げていく。

10. その他理事長所信に基づき行う事業

2023 年度は「Challenge a new era, and change the future! ～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」の理事長スローガンのもと、広報渉外委員会として郡山青年会議所の運動・活動をしているメンバーの笑顔を多く掲載し、メンバーの想いなどを記載することで共感が得られやすいように情報発信を行ってきた。

また、対外に向けて情報発信をするためにも、団体内の活性化を図るために毎月の例会にフォトコンテストを企画し毎月の受賞者を選定することや、団体内のメンバーを紹介する対内向けの広報誌を発刊するなど、対外だけではなく対内に向けての情報発信も行ってきた。

対外に向けての試みとしては、他 LOM との連携を図る相互フォローを企画し他 LOM の運動・活動に参加し、広報を行うことで他 LOM での事業に触れる機会を創出した。また、他団体との会談や鼎談を行うことで他団体との連携を図る機会となり、青少年育成委員会のキャンプ事業への足掛かりとすることが出来、また、他団体と共同事業の足掛かりとして「Clean My Town」といった広範囲の清掃活動を行った。

最後に、本年広報渉外委員長という機会をいただきました芝田理事長、そして阿部専務理事をはじめとする一年間ご指導・ご鞭撻いただいたメンバーの皆様に感謝を申し上げますとともに、近くで見守っていただいた佐久間副理事長、武田室長に感謝を申し上げます。また、一番近くでご助力いただいた親愛なる広報渉外委員会メンバーへ心からの御礼を申し上げ広報渉外委員長からの事業報告とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。

11. 広報・渉外活動全般

本年度は、メディア関係などとの窓口として挨拶回りや事業の記事などの打ち合わせを行った。また、他団体との会談や鼎談の企画や、他 LOM との連携を図り他 LOM の運動・活動をホームページや SNS へ記事として載せるなどの広報・渉外活動を行った。

12. 相互発信の企画・運営・管理

本年度は他 LOM との相互フォローをすることで LOM の運動・活動をお互いに発信する企画・運営を行った。他 LOM が行う事業や例会に参加・発信を行うことで LOM の垣根を超えた同じ志を持つ仲間との強固な絆を感じる事が出来た。

2023年度 まちづくり委員会

委員長 高橋 章太

副委員長 三瓶 卓也

★委員会スローガン

Green Challenge Koriyama

～今から始めよう、持続可能な郡山に向かって～

★事業方針

郡山市は、近年の台風による甚大な被害や地球温暖化が原因とみられる全国的な気候変動を背景に、「脱炭素社会」の実現を目指すべく、環境省が進める「2050年 二酸化炭素排出量実質ゼロ」に賛同している。様々な分野の産業が発展しながらも豊かな自然が残る郡山は、二酸化炭素排出量実質ゼロ＝カーボンニュートラルの実現に適した都市と言え、またカーボンニュートラルに向けた取り組みは今や世界の潮流となっていることから、取り組みを進めることは郡山の持続的発展や経済振興のためのチャンスと捉えることができ、豊かな自然を次世代に残していくと共に、地域資源を活用したビジネスの創出や生活の質を高めることにもつながる。しかし、カーボンニュートラルの推進には郡山に住まう市民や事業者の理解と協力が必要不可欠であり、より地域が一体となって取り組んでいかなければならない。そのためにも我々が今まで培ってきた地域間のネットワークを活用し、市民や事業者、関係諸団体と手を取り合って脱炭素を推し進める必要がある。

まずは、我々会員一人ひとりがカーボンニュートラルに向けた取り組みや、環境に配慮した経済循環について学び、理解することで、脱炭素社会の実現に向けた当事者意識を高める。そして市民や事業者が地域の課題としてカーボンニュートラルに取り組む気運を高めるために、幅広い世代が身近な課題として向き合える場を創出し、再生可能エネルギー等の地域資源を活用する学びの機会や、身近なところから始められる取り組みや目指すべき脱炭素社会の方向性を示す機会を提供し、共通の課題として認識することで地域に共感の輪を広げる。また、こうした運動を産官学民のあらゆる組織と協働することにより、市民や地域の関係諸団体とのパートナーシップを強化し、郡山の未来に向けてより強固な連携を生み出す。

カーボンニュートラルが身近な存在として地域に認識され、産官学民が一体となって取り組みを行うことで、環境と共生しながら時代に取り残されない発展や成長を遂げることができ、豊かな自然と持続可能な郡山を次世代に繋いでいくことが可能となる。

★事業計画

〔開催予定月〕

- | | |
|------------------------------------|---------|
| 1. カーボンニュートラル推進セミナー | 〔3・10月〕 |
| 2. 第62回「久米賞・百合子賞」実行委員会の設置(室合同) | 〔2～12月〕 |
| 3. サマーコンファレンス引率事業 | 〔7月〕 |
| 4. カーボンニュートラル啓発事業 | 〔10月〕 |
| 5. 11月例会の運営・第62回「久米賞・百合子賞」授賞式(室合同) | 〔11月〕 |
| 6. 会員拡大に関する情報収集 | 〔通年〕 |
| 7. その他理事長所信に基づき行う事業 | 〔通年〕 |

★事業報告

1. カーボンニュートラル推進セミナー

本事業では、10月に行うまちづくりのメイン事業に向けてまずは対内向けのセミナー事業を行った。講師には品川萬里市長、郡山市環境政策課の渡辺課長をお招きし、カーボンニュートラルの基礎知識から郡山市の取組み、今後の方針を拝聴し、カーボンニュートラルへの理解を深め、地域における共通課題であると認識し、脱炭素化を牽引していく自覚が芽生えた事業となった。

2. 第62回「久米賞・百合子賞」実行委員会の設置(室合同)

実行委員会を設置し産官学との連携力が強化された事により、郡山市の子供たちに対し発信力を強める起点とすることができた。

3. サマーコンファレンス引率事業

各界を代表する有識者の方々による様々なセミナー・フォーラム等を受講し、多くのメンバーがまちのビジョン創造の実例や、SDGs推進運動の成果を学び、共感を得ることで、こおりやまに更なる地域活性化に向けた運動を展開するための機会となった。また、(一社)奈良青年会議所との合同 LOM ナイトを開催し、姉妹 JC としての交友を深める機会となった。

4.カーボンニュートラル啓発事業

再生可能エネルギーについての学びと体験の機会や、カーボンニュートラルの具体的な取り組みを学べる機会を提供し、カーボンニュートラルをより身近に感じてもらう機会とすることができた。また、郡山市が産官学民一体となってカーボンニュートラルに積極的に取り組んでいるということを市民に認識してもらい、地域一体となって脱炭素社会を目指すという意識を醸成し、自発的にカーボンニュートラルに取り組む機運を高めることができた。本事業を行うことで、産官学民と協働してカーボンニュートラルを推進していくという強い当事者意識を持つことができた。

5. 11月例会の運営・第62回「久米賞・百合子賞」授賞式(室合同)

歴史と伝統のある「久米賞・百合子賞」の授賞式を行なったことで、文学賞としての魅力や文学に関わることの素晴らしさを広く一般市民に伝え、青少年の文学に対する芽を育み、青少年健全教育を推進した。また、講演会においては農学博士の稲垣史生氏にご講演いただき、文学とはまた違った題材であっても中学生や一般参加者の興味を引くことができ、新たな発見の一つとなった。

6. 会員拡大に関する情報収集

今年度は企業や学生と協働した事業を展開し、多くの接点をもつことができた。そこから青年会議所運動・活動に対して参加企業から関心、興味を持っていただき他委員会と情報を共有し会員獲得へつなげることができた。

7. その他理事長所信に基づき行う事業

今年度は「Challenge a new era, and change the future!～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」のスローガンを念頭に置きながら運動・活動を展開してまいりました。コロナ禍以前の日常へ戻りつつある状況から、コロナ禍以前のように多くの市民や行政、諸団体を巻き込み、運動を展開することができた。実現できなかった事業もあったものの、結果的に実地開催にて制限なく産官学民を巻き込み、運動を展開出来たことで成果も得られた。ご協力いただいたメンバーの皆様へ委員会一同心から御礼申し上げます。1年間ありがとうございました。

2023 年度 青少年育成委員会

委員長 佐久間 郡

副委員長 長尾 宗一郎

★委員会スローガン

雲外蒼天

～明るい未来へ～

★事業方針

近年、地域の都市化に伴う遊び場の減少やスクリーンタイムの増加により子どもたちを取り巻く生活環境が変化している。また新型コロナウイルス感染症流行の長期化により集団活動の制限や、協調性を育むためのイベントの中止など、大きな影響が続いている。そのことにより体力低下や人間関係の希薄化による協調性、積極性の欠如などが解決すべき課題として浮き彫りになってきており、ひいては社会全体の活力低下に繋がりが社会問題となることが懸念されている。取り巻く環境の変化に晒されている子どもたちの健やかな成長のためにも、仲間と協力し合い、様々な経験を通して地域の未来を担う子どもたちの可能性の幅を広げる必要がある。

青少年育成委員会では、自然のなかで子どもたちが安心して体を動かし多様な価値観をもつ仲間とともに様々な経験をすることで、積極的に取り組む意欲や困難を乗り越える力を育む機会を創出する。また、わんぱく相撲を通して礼節や思いやりを学び、仲間たちと切磋琢磨することで心身の健全な成長の機会を創る。

事業を通して子どもたちが協調性や積極性を学び仲間との友情を育むことで、周りを巻き込み行動ができる人財となる。そして将来への可能性の幅が広がっていき、夢や希望が溢れる明るい持続可能な郡山の未来へと繋がっていく。

★事業計画〔開催予定月〕

1. 京都会議参加引率 [1月]
2. 第62回「久米賞・百合子賞」実行委員会の設置(室合同) [2～12月]
3. 第58回郡山市こどもまつりへの参画 [5月]
4. わんぱく相撲郡山場所の開催・福島ブロック大会引率
全国大会・女子全国大会への参加引率 [5～8月]
5. 青少年育成事業の開催 [8月]
6. 11月例会の運営・第62回「久米賞・百合子賞」授賞式 [11月]

7. 会員拡大に関する情報収集 [通年]
8. その他理事長所信に基づき行う事業 [通年]

★事業報告

1. 京都会議参加引率

1月20日から22日の三日間、国立京都国際会館にて開催された2023年度京都会議において引率を担当した。2023年度京都会議は「Remember Your Dream」のテーマで3年ぶりのフル実地開催となり、多くのメンバーで様々なセミナー、ファンクションに参加して日本青年会議所の基本理念を共感、理解することができた。また、一般社団法人奈良青年会議所との合同 LOM ナイトでは、両青年会議所のメンバーが親睦を深める機会となった。

2. 第62回「久米賞・百合子賞」実行委員会の設置(室合同)

本年の「久米賞・百合子賞」は、まちづくり委員会と青少年育成委員会との合同開催となった。実行委員会の設置や審査員顔合わせ会の開催、読み合わせ会の開催と年間を通して作品募集前の段階から多くの準備があったが、両委員会で協力して大きなトラブルもなく進めることができた。また、本年は例年より多くの学校から応募をいただくことを目標として学校へ訪問して「久米賞・百合子賞」の意義を校長先生、担当教諭に説明をする取り組みを行い、例年より多い16校からの応募をいただくことができた。応募作品数も小説79作品、詩223作品、合計で312作品と多くの応募をいただき、百合子賞から正賞を二名出すことができた。この歴史と伝統のある文学賞が益々、発展していけるように良かった点、至らなかった点をしっかりと引継ぎ、より良い「久米賞・百合子賞」へと繋げる。

3. 第58回郡山市こどもまつりへの参画

第58回郡山市こどもまつりは、開成山公園のパーク PFI 事業工事があり例年とは違い郡山カルチャーパークでの開催となった。新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりの開催となった。会場が変わったことで準備段階から多くの不安要素があったが委員会で、子どもたちに楽しんでもらうことを第一に考え企画、準備を行った。開催日当日は様々なコーナーがあるなかでも、多くの子どもたちに来場していただき楽しんでいただくことができた。1000人を超える方々にコーナーへ来場していただき、ケガやトラブルもなく終えることができたのは、祝日にも関わらず多くのメンバーの皆様にご協力いただいたことが大きく、委員会一同感謝申し上げます。

4. わんぱく相撲郡山場所の開催・福島ブロック大会引率

全国大会・女子全国大会への参加引率

5月にわんぱく相撲郡山場所を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け各学校で活動していた相撲クラブが廃止になっていることもあり参加人数は少なかったが、参加者が少ないなかでも、わんぱく相撲福島ブロック大会では6年生、5年生、4年生の各学年から全国大会

への出場者が出た。全国大会へ出場した参加児童とその保護者からは、初めての両国国技館の土俵に立てた喜びと、多くの感謝の言葉をいただくことができた。5年生と4年生の参加児童からは、来年の活躍を期待できる言葉もいただくことができた。全国大会の試合結果こそは残念なものだったが、郡山から引率した参加児童が堂々と土俵に上がり、立派に取り組みをする姿は引率を担当した委員会メンバーにとっても、良い思い出として残り、素晴らしい経験となった。

5. 青少年育成事業の開催

8月に郡山市内に在学の小学4、5、6年生60名を対象として「わくわくチャレンジキャンプ」を開催した。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で学校環境や教育環境が大きく変化していたが、本年は5類感染症に移行したこともあり、制限などもなく盛大に事業を開催することができた。本事業では、安心安全を追求して子どもたちが体を動かしながら交流して積極的・協調性を学ぶことを目的として計画していたが、参加した児童の全員が事業に積極的に参加し、グループ活動の中で協調性の大切さを学んでいた。また、事業内のファンクションに興味を持ち真剣に取り組んでいる姿が印象に残った。猛暑日のなか1泊2日の宿泊、さらには野外での活動もあり不安な点もあったが、多くのメンバーの皆様に参加していただき子どもたちに寄り添っていただいたことで、大きなケガやトラブルもなく終えることができた。青少年育成委員会のメイン事業に参加していただき、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

6. 11月例会の運営・第62回「久米賞・百合子賞」授賞式

本年の11月例会並びに第62回「久米賞・百合子賞」授賞式、記念講演会は総務委員会、まちづくり委員会、青少年育成委員会の三委員会合同での開催となった。2023年度となり11回目の例会ということもあり、例会を担当いただいた総務委員会の設営はしっかりとしており、例会後の記念講演会にスムーズに進行していただいた。記念講演会では郡山市出身で国立研究開発法人海洋研究開発機構上席研究員、東北大学大学院教授の稲垣史生様に「激変する地球システムと人間活動の関り～私たちはどこへ向かうのか～」の演題でご講演いただいた。例年の、文学についての講演とは違い地球環境についてお話していただいた。記念講演会後は第62回「久米賞・百合子賞」授賞式を開催した。本年は小説、詩からそれぞれ百合子賞正賞が出たことを、担当委員長としてとても嬉しく思う。

7. 会員拡大に関する情報収集

青少年育成の事業を通じて新入会員候補者の情報収集を行い、会員拡大のために声掛けを行い、委員会メンバー全員が持続可能な組織開発委員会の行う事業に積極的に参加した。

8. その他理事長所信に基づき行う事業

2023年度は理事長が掲げる「Challenge a new era, and change the future!～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」のスローガンのもと、青少年育成委員会でも地域の宝とも

いえる子どもたちにとって今、何が必要とされているのかを考え活動を行った。今年は何年続いた新型コロナウイルス感染症も 5 類感染症となり、制限を設けることなく集団での活動を行ったりすることができた。事業を通して感じたことは、子どもたちが元気に体を動かしている姿を見て、これが本来の子どもたちのあるべき姿だと確信した。子どもたちの元気な姿が地域の活力へとつながり、地域が明るく豊かになるためには子どもたちが元気でなくてはならないと改めて実感させられた一年間であった。この一年間、青少年育成委員会の事業にご協力いただいた皆様、そして共に子どもたちのことを考え活動してきた 2023 年度青少年育成委員会メンバーに心より感謝を申し上げ 2023 年度青少年育成委員会の事業報告とする。

特別委員会報告

選挙管理委員会 事業報告

委員長 柳沼 勝恵
副委員長 新田 義幸
委員 笠間 寛
委員 紀乃 知佳
委員 中嶋 拓歩

公益社団法人郡山青年会議所令和6年度理事長選挙に先立ち6月21日に第1回選挙管理委員会を開催し、委員の互選にて正副委員長を選出した。「公益社団法人郡山青年会議所定款」第29条並びに「公益社団法人郡山青年会議所役員選出に関する規定」に基づき、下記日程の通り選挙を実施した。

1. 選挙告示文書の発送 6月30日
2. 令和4年度選挙人名簿の作成 7月10日
3. 第3回選挙管理委員会 7月15日
4. 選挙権・被選挙権を有しない会員への告示文書の発送 7月15日
5. 立候補届出受理期間 7月13日～15日

結果、織田陵平君1名の立候補があり、「公益社団法人郡山青年会議所役員選出に関する規定」第13条に従い、厳正なる審査の結果、織田陵平君を当選人とし、7月16日をもって当選告示し、7月20日の公益社団法人郡山青年会議所7月例会の席にて当選証書を授与した。また、9月20日の9月定時総会にて、当選人の報告をした。

褒賞委員会

委員長 久保田 雄大
委員 金山 慶一
委員 矢吹 瞬
委員 江崎 健太
委員 大原 慶大

褒賞委員会では、本年度郡山青年会議所が展開した各事業活動に参加した現役メンバーを対象に、グループ（委員会）ならびに個人を表彰し、メンバーの更なる意識向上ならびに対内活性化を図り、次年度以降へのより活発な活動へと繋げることを目的に、褒章事業を実施致しました。公益社団法人郡山青年会議所褒章規定に基づき、厳正かつ公正なる審査の元各褒章受賞者を決定し、12月例会にて表彰をおこないました。

対象者の出席率が僅差であるなか、最優秀賞と優秀賞の区別をどのようにつけるべきか委員会内で議論する場面がありましたが、本年度は同日開催の事業の取扱いや出向者の公欠についての判断基準を明確にし、受賞者を決定いたしました。褒賞の基準については時代の変化を鑑み、今後も柔軟に対応していく必要があると感じました。また本年度も理事長特別賞を設けていただき、様々な環境下にある多くのメンバーを対象に褒賞事業を実施することができました。選考にあたりご協力いただいた室長、委員長の皆様に感謝申し上げますとともに、受賞されたメンバー、それを支えたすべてのメンバーの皆さまの今後益々のご活躍を祈念し報告とさせていただきます。ありがとうございました。

【最優秀 JAYCEE 賞】 圓谷 紀幸 君、菅 洋滋朗 君

【優秀 JAYCEE 賞】 石黒 恵太郎 君、高橋 祐樹 君

【最優秀グループ賞】 青少年育成委員会

【優秀グループ賞】 広報渉外委員会

【最優秀新人賞】 今泉 佳顕 君

【優秀新人賞】 安藤 礼重 君、石井 聡彦 君

【理事長特別賞（ルメイユール賞）】 太田 雅一 君、紀乃 知佳 君、

【10年表彰】 桑原 勇太 君、小桧山 亮太 君

会員選考委員会

委員長 佐久間 悠治
委員 柳沼 勝恵
委員 武田 淳
委員 大越 惇平
委員 土屋 繁太郎
委員 高橋 祐樹
委員 中嶋 拓歩

本年度は、入会候補者の意思が確認された後に、速やかに面接及び会員選考委員会を開催した。面接は公益社団法人郡山青年会議所会員資格規則第2章正会員の入会に基づき行い、会員選考委員会にて厳正に審査を行った。その結果として、2024年度の正会員として新入会員12名を当青年会議所の会員として適格と認め理事会にて承認をいただいた。

なお、2024年度正会員の新入会員は以下の通り。

金子 與志久君、山口 武史君、七海 秀貴君、岩崎 壮宏君、新城 英之君、緑川 沙智君、馬場 菜里君、阿部 恵里香君、平方 貴之君、根本 拓君、須田 愛美君、佐藤 里美君

法人格検討委員会

委員	長	矢吹	瞬
委員		久保田	雄大
委員		金山	慶一
委員		柳沼	勝恵
委員		飯島	悠希
委員		阿部	圭祐
委員		江崎	健太
委員		武田	淳
委員		山本	将司
委員		中嶋	拓歩
委員		大原	慶大

本委員会では、芝田理事長の所信に基づき会員に対し本会議所の財政の現状を認識してもらい、それぞれの法人格の特長について理解を深めてもらうことを目的とした「財務及び法人格に対するセミナー」を開催した。LOMの財政に特化したパート、法人格についての知識を深めるパート、それらについての意見交換のためのバズセッションパートの3部構成とし、より多くの会員に受講してもらうべく同一内容のセミナーを8月28日、9月11日の2日間開催した。

目標に掲げていた全員参加・回答が達成できていない点は反省すべき点であるが、バズセッションでは白熱した議論が繰り広げられており、参加いただいた皆様から財務そして法人格に関して様々な意見や疑問点が得られた点、つまりは自分事と捉えて活発に意見交換を行っていた点は皆様が非常に高い関心を持っている表れであると感じたと同時に、今後のLOMの財産になると確信した。財務と法人格の問題は切っても切り離せないものであり、我々は判断を迫られた際に適切な知識を持ち、的確な判断をする必要がある。アンケートの回答に、会員同士で引き続き議論をしていくことが必要との声があったが、その意識がこれから先へと繋がるものであり、次年度以降さらに広がっていくことを祈念し委員会報告とさせていただきます。

出向者報告

(公社) 日本青年会議所

地球環境委員会

副委員長 久保田 雄大

小 幹 事 土屋 繁太郎

委 員 管 洋滋郎

はじめに、本年度公益社団法人日本青年会議所 地域グループ 地球環境委員会に出向させていただきましたことに、芝田理事長をはじめとするメンバーの皆様に心より感謝申し上げます。

本年度地球環境委員会では、あらゆるモノを大切に活かしきる循環型社会の基盤を構築することを目的に、様々な運動を展開してまいりました。

京都会議では、公開委員会にて「環境改善と経済発展の好循環をもたらす環境配慮経営セミナー」を開催しました。経営者自らが脱炭素を理解し、経済と環境のバランスが取れたこれからの経営手法を学んでいただくことで、企業が環境に配慮した経営に取り組むための意識付けをすることができました。

サマーコンファレンスにおいては、「MOTTAINAI キッズフリーマーケット」「アップサイクル体験」「フードドライブ」の3つのファンクションを実施させていただきました。MOTTAINAI の精神を学んでいただくことで、あらゆるものが資源になるということを理解し、実生活・実社会において循環型社会の形成に向けた行動を起こすきっかけを提供することができました。

その他年間を通して、全国の小中学校向けに脱炭素社会の実現に向けた実践的な取り組みとして、持続可能な航空燃料（SAF）を題材とした SDGs 出前授業を全国各地にて実施させていただきました。生徒をはじめ教職員の方、保護者の方、各種報道関係者にも参加いただき、新聞・テレビ等のメディアにも取り上げていただくことで、あらゆるモノの大切さ、それを活かす大切さを広く発信し、循環型社会の基盤構築に寄与することができました。

また、世界へ向けた発信として、ASPAC の第3回グローバルソリューションサミットにて日本代表として当委員会より MOTTAINAI 運動を発信させていただきましたが、その後 JCI ベトナムとの連携により、ホーチミン市、レボインターナショナル、サイゴンコープの廃食用油回収計画が進んでいることも大きな成果となりました。

学び多き1年間となりましたが、本会で得た様々な経験を LOM に還元することが出向者の最大の使命であると心得、全力で今後の運動・活動に取り組むこととお誓い申し上げ、出向者報告とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。

財政審査会議
委員 橋本 直樹

拝啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。2023年度に日本青年会議所の財政審査会議の委員として出向いたしました件についてご報告いたします。

2023年度は、麻生将豊会頭の「世界に冠たる日本を取り戻す理念の下、全力でまい進する」という所信表明のもと、『委員会に寄り添う財政審査会議』という方針で活動してまいりました。財政審査会議の役割は、公益社団法人としての日本青年会議所の活動の透明性と効率性を保証することであり、この役割を遂行するために各事業の議案書の審査を実施してきました。

議案書の審査では事業収支決算報告書を含む議案を精査し、協議や審議、補正、決算など議案のステージごとに適切な財審様式が使用されているか、記載方法が適切か、記載内容に問題がないか、議案書全体としての整合性がとれているか、見積書・請求書や覚書など必要な書類が適切に準備されているかなどを審査していき、各委員会に対して適切なフィードバックを実施してまいりました。今回は冒頭に記載の通り、委員会に寄り添う方針であったこともあり、できるだけ具体的にわかりやすくフィードバックを行うことを心掛けました。

また、2023年度に固有の事象として、インボイス制度への対応がありました。インボイス制度は2023年10月からスタートした制度ですが、支払いのタイミングでこちらの制度に準拠している必要があったため、見積もりの取得がはじまる6月の段階から各委員会の周知を実施し、さらに上程された議案について見積書や請求書が添付されている場合には、「T+13桁」の形式で表示される登録番号が適切に記載されているかなども注意を払う必要がありました。

このように、この一年間、私は日本青年会議所の財政審査会議運営のさまざまな側面に深く関わり、多くの学びを得ました。財政審査とは単に数字を見るだけでなく、各事業の活動が青年会議所の目標とビジョンにどのように貢献しているかを理解し、事業活動がより効果的に社会貢献に資するように支援することであると学びました。このような財政審査会議の活動は、日本青年会議所の成功と発展において重要な役割を担っています。

最後に、この貴重な経験を提供していただいた郡山青年会議所に感謝申し上げます。この経験は私のキャリアにおいて非常に重要なものとなり、今後の活動に大きな影響を与えるものと確信しております。今後とも、郡山青年会議所の発展に貢献できるよう努力して参ります。

(公社) 日本青年会議所 東北地区協議会

東北ゼミナール特別委員会

委員 圓谷 紀幸

はじめに、本年度公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会 東北ゼミナール特別委員会に出向という機会をいただきましたことに、芝田理事長をはじめとするメンバーの皆様へ感謝申し上げます。

本年度ゼミナール特別委員会は 2020 年以來となる委員会設置で、「誰もが憧れるトップリーダーの育成」をテーマに 1 年間活動してまいりました。

第 1 講座から第 4 講座まで「チームビルディング、カーボンニュートラル、地域の魅力発掘、理事長所信」に焦点を当て、事前の課題活動に取り組み、当日の講座で発表をし内容をブラッシュアップするという刺激的な各講座でした。

本年度は従来のゼミナールと形式を変え、少数精鋭のメンバーで尚且つ運動・活動を各 LOM と協力して実施するという形でした。私もパートナー LOM を選定し、その LOM の抱える課題に対して今度どのような行動をしていくのか提言をし、検証報告までさせていただきました。パートナー LOM の理事長をはじめとする正副メンバーとも膝を突き合わせ語り合った時間はかけがえのない経験であったと実感しております。

出向で培った経験を LOM に還元し、今後の JC 運動・活動に邁進してまいります。一年間、本当にありがとうございました。

広報ブランディング委員会

委員 武田 淳

はじめに、本年度公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会 広報ブランディング委員会への出向の機会を頂き、芝田理事長をはじめとするメンバーの皆様へ心より感謝申し上げます。

広報ブランディング委員会では東北地区協議会の運動を発信する広報活動を年間通して中心に行いつつ、東北 74LOM の事業を対象とした褒章事業やアニュアルレポートの作成を行い、各 LOM の支援に携わってまいりました。

実は私は地区協議会に対する印象について、地区から LOM への支援を日本やブロックと比べると事業の規模感や LOM との距離感についてどれを比較してもあまり良い印象を持ち合わせておりませんでした。しかし、今回の出向で取り組みの一旦ではありますが、事業の準備から実施に携わったことで認識が変わり、より地区協議会の必要性を強く感じることができました。

今回の出向で価値観が変わり、これからの JC 運動・活動にさらなる拡がりを与えてくれたこの度の出向の機会に改めて感謝申し上げます。私の出向者報告に代えさせていただきます。1年間ありがとうございました。

顧問 柳沼 勝恵

本年度、福島ブロック協議会顧問として出向させていただきました。「誰もが誇れる故郷の創造～福島をヤバくする！～」の力強いスローガンのもと役員全員が一丸となり目的達成に向け役割を全うしました。私も顧問として実務を担うわけではありませんでした。常に金子会長の隣でブロック協議会の運営や各委員会の運動構築のサポートをさせていただきました。改めましてこのような貴重な機会を与えてくださいました芝田理事長に心から感謝いたします。これまで東北地区出向が主だった私が初めて福島ブロック協議会に顧問として出向させていただき、はじめはどのように協議会の運営、委員会のサポートをしていくべきか悩むこともありました。それでも私が10年間のJC経験の中で客観的に見てきた協議会役員のかっこいい姿、日本、東北地区出向の際にブロック協議会と実際に連携し助けられた経験、そして何より金子会長の徹底したLOM支援への想いをもとに行動することで微力ではありますが、協議会の運営と「福島をヤバくする」一助とすることができたのではないかと考えます。福島ブロック出向の経験がない私に顧問という重責を担わせていただき、この経験から次年度は金子会長からバトンを引き継ぐことになりました。ブロック協議会初出向の私が顧問として常に金子会長の隣で運営に関わらせていただいたからこそ、金子会長からのバトンを引き継ぐことができたと考えております。また顧問という役職を通して福島ブロック内の多くのメンバーと同じ時間を共に過ごさせていただき、かけがえない仲間との出会い、大きな成長の機会をいただきました。支えていただいたLOMの皆様全員に心から感謝申し上げ私からの出向者報告とさせていただきます。

県南エリア担当（アカデミー委員会担当）副会長
織田 陵平

はじめに、2023 年度 公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会 県南エリア担当（アカデミー委員会担当）副会長への出向という大きな機会をいただき、一年を通して多大なご協力をいただきました芝田 銀平 理事長をはじめとした現役会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

2023 年度福島ブロック協議会は、金子 善弥 会長の掲げる「誰もが誇れる故郷の創造～福島をヤバくする！～」のスローガンのもと運動を展開し、私はアカデミー委員会担当副会長として、（公社）いわき青年会議所より出向した大和田 勝史 委員長とともにアカデミー委員会をお預かりし、アカデミー生が LOM での即戦力となる成長につながるように事業を構築してまいりました。本年度アカデミー委員会は「想いを、その先へ」のスローガンのもと、新しい試みとして「多様性」を取り入れ、これからの時代に即した考え方を学ぶことで、アカデミー生が今後役職に就いた際に LOM の運営に活かせるよう、また、自身の社業にも活かせるような学びの機会を取り入れました。難しいテーマでしたが、多くの識者や講師の方々に実際にお話を伺い学びながら各塾長やスタッフにも浸透させ、事業前の塾会議にてアカデミー生に事前学習の機会を提供することで、「多様性」についての理解がさらに深まったと思います。私も委員長もアカデミー委員会への出向経験がない状態でのスタートでしたが、福島ブロック協議会の偉大な先輩方や（公社）日本青年会議所 リーダー育成会議の矢野 陽一 議長をはじめ多くの方々にご協力をいただき、アカデミー生とともにスタッフも学んでいくことができました。また、6 月には「理念共感プロモーター」の資格も取ることができ、私自身も LOM に還元できるような成長を得ることができました。

この一年を振り返ると、開校式から閉校式まで毎回議案の上程があり、多くのご意見をいただき心が折れそうになる瞬間もありましたが、すべては事業や引き継ぎをより良くするためのものであり、それらを咀嚼しよく考える機会をいただいたことに感謝しています。現在、それらの経験が血となり肉となっています。これからも心を尽くして行動し、まちの発展のため全力で邁進してまいります。

結びに、一年間ご協力をいただきました多くの皆様に感謝を申し上げ、これからの福島ブロック協議会の発展を祈念し、私からの出向者報告とさせていただきます。ありがとうございました。

組織連携推進委員会

委員 大原 慶大

本年は福島ブロック協議会組織連携推進委員会に出向させていただき、誠にありがとうございました。

この一年の出向期間を振り返りますと、初めての出向ということで LOM 外のメンバーと交流を深めることができ、とても有意義な一年間を過ごすことができました。ブロック大会で担当した「地域をヤバくする!!リジェネラティブで繋ぐ地域連携のいまとこれから」のブース出展、そして年間を通してご依頼いただいた様々な LOM 支援事業を経て、さまざまな方と出会い、学び、経験することで自己成長できた一年になりました。中でもいわき豪雨災害支援活動では現地にかかけつけ被災者の方の現状を聞きながら、土砂の撤去作業を行うという今までに経験のしたことのない経験ができました。かけがえのない仲間ができた一年でもありました。今後はその学びや経験を LOM に還元できるよう邁進していく所存です。

最後になりますが、この貴重な機会を与えてくださった芝田理事長をはじめとするメンバーの皆様に改めて心より感謝を申し上げ、私からの出向者報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

アカデミー委員会
委員 高橋 祐樹
委員 石黒 恵太郎

はじめに、本年度公益社団法人日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会アカデミー委員会に出向の機会をいただけたことに、芝田理事長をはじめとするメンバーの皆様感謝申し上げます。

本年度のアカデミー委員会は「It's アカデミー♪ ～想いを、その先へ。～」のスローガンのもと、LOMを牽引するリーダーとなるべく同期アカデミー生と切磋琢磨するとともに、多様性という観点より様々な講師の方々から多くの学びと気づきを得ることができました。

委員会ではJCの理念や使命の重要性を学ぶとともに、各塾による「福島ブロック大会 in 猪苗代」での中間成果発表、そして「アカデミー委員会閉校式」での最終成果発表に向けて、発表のテーマであった「福島ブランド」の事業構築、それに至る議案書構築のための実践的かつ効果的な手法を学ばせていただきました。さらに発表の場を通して、話し方や想いの伝え方を含めたプレゼンテーションスキル向上の機会をいただきました。「The ダイバーシティ♪」の座談会においては、魅力的な講師の方々から多様性を中心とした講義をいただき、JC運動・活動だけでなく、社業や人生において大きな意識の変革を得ることができました。そしてなにより、県内各LOMの同期アカデミー生との間に生まれた絆、そして同世代からJCに対する姿勢など多くのことを学ばせていただき、自身の在り方について見つめ直す機会ともなりました。

本年度のアカデミー委員会で学んだことをしっかりとLOMに還元すること、そして私たちがLOMを牽引するリーダーとして成長することこそが、アカデミー委員会へ送り出していただいたメンバーの皆様への恩返しになると考えております。これからもより一層JC運動・活動に邁進していくことをお約束いたしまして、出向者報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

福島未来創造委員会
副委員長 望月 俊弥

本年は福島ブロック協議会 福島未来創造委員会に出向させていただき、誠にありがとうございました。

この一年の出向期間を振り返りますと、JCカップ福島大会、福島ブロック大会 in 猪苗代にて防災減災ブース出展、JCカップ全国大会にて地宝の魅力発信と様々な対外事業を行ってまいりました。特に自身が担当した防災減災ブース出展においては、東京の学生と一緒に事業を構築していき、学生のひたむきに事業に取り組む姿を見て改めて真摯に取り組む姿勢の大切さというものに気づかされました。また今回の様々な対外事業を構築していく経験をLOMに還元できるよう邁進していく所存です。

最後になりますが、この貴重な機会を与えてくださった芝田理事長をはじめとするメンバーの皆様に改めて心より感謝を申し上げ、私からの出向者報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

ブロック大会実行委員会

紀乃知佳

2023年度の卒業生でありながら貴重な出向の機会を与えていただきましたこと、芝田理事長をはじめとする LOM メンバーのみなさまに心より御礼申し上げます。

本年度は Regenerative～環境と経済の両立を目指して～というテーマを掲げ猪苗代青年会議所主管のもと活動を行いました。

ブロック大会は脈々と受け継がれる大切な運動の発信の場であり、それを担う実行委員会はメンバーも各 LOM の精鋭が集まり県内各地で会議を開催し、活発に活動をしてまいりました。猪苗代という土地の特性を活かし、より良くして次世代へ繋ぐという猪苗代青年会議所のみなさんの熱い想いを委員会メンバーと一緒に形にしていく過程は、ワクワクの連続でした。

少人数の LOM であってもブロック大会のような大きな事業を開催することができるのは JC のスケールメリットであり、金子会長が掲げていたブロック協議会による LOM 支援が大きな支えであったように思います。

わたしはこの出向を通して LOM とは全く違う環境の中、県内各地で活躍するカッコいい JC マンたちから多くの学びを得ることができました。彼らと 1 年間共にできたことをとても誇りに思います。

ブロック大会は次年度田村青年会議所へバトンを繋ぎました。彼らは次年度も素晴らしい大会を設えてくれることと思います。

最後に、猪苗代大会に携われたこと、たくさんの仲間ができたこと、出向しなければ得られなかったこの貴重な経験はわたしの宝物となりました。出向させていただいて本当に楽しかったです。一年間本当にありがとうございました。

総務広報委員会

委員 笠間 寛

委員 杉島 健太

はじめに、本年度、公益社団法人日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会総務広報委員会に出向させていただきましたこと、芝田理事長をはじめとする理事の方々、送り出していただいたメンバーの皆様に、深く感謝申し上げます。

出向のお話をいただいた時にはプラスになることは理解していましたが総務広報委員会ということもあり、時間的な部分で参加ができるのか不安な所がありました。新春の集いから始まり、卒業式までそして一番大事な諸会議の設営等の裏方作業など総務広報委員会なくしてブロックの運動・活動はできないものなのだと肌で感じる事ができました。また、ブロックの中でも郡山という LOM が一目置かれる存在なのだという事も改めて感じる事ができました。このような気づきと機会を次年度以降も増やしていけるよう運動・活動していこうと思います。

最後になりますが、一年間このような素晴らしい機会を与えていただいたことに、改めて感謝申し上げます、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

アカデミー委員会
委員 佐藤 広幸
委員 杉島 健太

はじめに、本年度公益社団法人日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会アカデミー委員会に出向させていただきましたこと、久保田理事長をはじめとする理事の方々、送り出していただいたメンバーの皆様に、深く感謝申し上げます。

本年度は新型コロナウイルス感染症のまん延防止の観点からオリエンテーションの実地開催が中止となり、開校式もWEBで行うという例年とは異なる形でスタートいたしました。実地とWEBを併用したハイブリッドでの委員会が開催され、各塾に別れて、会津、中通り、浜通りが抱える問題点について議論を重ね、各地域特定の問題を解決するための中期ビジョンを作成していきました。ビジョン作成にあたっては福島県庁復興・総合計画課や日本青年会議所などから講師を招いていただき、実践的かつ効率的な手法を学ばせていただきました。作成した成果は、福島ブロック大会 in 二本松での成果発表会にて発表させていただき、その後、地方創生政策アイデアコンテストに応募させていただきました。他のLOMメンバーとの絆を深めるだけでなく、「Presenter」セミナーの受講により、個人のプレゼンテーションスキルを高める機会も与えていただき、多くの学びと気づきを得られた委員会となりました。

本年度アカデミー委員会には「未来を巻き込む即戦力となる！」というテーマがございました。他を巻き込むことで生まれる創造性の高さや団結力の大きさを、委員会を通して体感したことにより、JC活動に対する取り組み姿勢と、周囲に働きかける意識が向上したと感じております。今後はLOMを支えるメンバーになっていくことが、恩をお返しできる一番の方法だと思いますので、委員会で学んだことを活かし、これからも邁進していきたいと思っております。

最後になりますが、一年間このような素晴らしい機会を与えていただいたことに、改めて感謝申し上げます。報告とさせていただきます。ありがとうございました。

監事報告

監事 金山 慶一

監事 柳沼 勝恵

芝田銀平理事長をはじめとする公益社団法人郡山青年会議所会員の皆様、2023年度のJC運動・活動大変お疲れ様でした。

本年度は「Challenge a new era, and change the future!～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～」のスローガンのもと、故郷郡山や郡山に暮らす人々の未来のために芝田理事長を中心にLOMメンバーが一丸となり数多くの事業をおこなって参りました。

本年度5月には新型コロナウイルスが5類に引き下げられたこともあり、アフターコロナという急速に変化する時代の中で、組織として今我々に何ができるかを議論し、事業の構築をおこない、より効果的な運動や活動に邁進しました。

そのような中でも、数年ぶりに開催した小学4年生から6年生を対象としたキャンプ事業や産官学民と協力し、カーボンニュートラルを老若男女に推進したまちづくり事業を主力事業として多くの市民の皆様にご参加いただけたことで、近年多くの参加者を募った対外事業が減少してはいましたが、事業内では笑顔や活気が溢れ、明るい豊かな社会の実現に向けた事業を開催することができました。

例会や総会におきましては、通常通り開催できたことも、年間を通して設営にご尽力いただいた総務委員会の皆様のおかげです。例会内での現役会員間の情報の共有やコミュニケーションが非常に重要な機会であることを再認識し、総会内では定款や諸規定改正をおこなうなど、新たな挑戦があった一年でした。

遠征については本年度の設えとしましては全て実地開催となり、遠征先で地域の魅力や主催者や主管LOMの大会にかける熱い想いを体感することで、より多くの学びと気付きを得ることができ、JC運動・活動への活力とさせていただきました。

出向につきましては、日本青年会議所、東北地区協議会、福島ブロック協議会に延べ14名の出向者を輩出しまして、皆様それぞれの立場で多くの事業や各種大会にてご自身の担いを全うし、活躍され同LOMメンバーとしても誇りに思う機会が多くございました。出向の魅力や素晴らしさをお伝えいただくとともに、貴重な経験をLOMに還元し、次年度以降も新たに出向していくメンバーに対して様々なアドバイスをしていただきたくよろしくお願いいたします。一年間本当にお疲れ様でした。

本年度の様々な経験を糧として主体的に活躍していくことが重要です。そして私たちが夢描く最高の未来に向けて、ひとづくり、まちづくり運動を推進し、明るい豊かな社会を実現していただきたいと思っております。LOMメンバーの一人ひとりが当事者意識をもち心を尽くして行動することで、私たちの想いが新世紀郡山の扉を開き、郡山青年会議所が地域を牽引する団体として、より有意義で活発な運動・活動に繋がる事をご祈念申し上げます。私たち2名の監事報告と致します。

月別事業報告

	総務委員会
1月	05日 第1回総務委員会開催 16日 新年会開催 17日 文書発送並びに第2回総務委員会開催 30日 1月例会・定時総会開催
2月	02日 第3回総務委員会開催 20日 2月例会開催 21日 文書発送並びに第4回総務委員会開催
3月	03日 第5回総務委員会開催 16日 文書発送並びに第6回総務委員会開催 27日 3月例会開催
4月	04日 第7回総務委員会開催 17日 文書発送並びに第8回総務委員会開催 19日 4月例会並びにチェリーパーティー開催
5月	01日 第9回総務委員会開催 16日 文書発送並びに第10回総務委員会開催 20日 5月例会並びに体験交流会～グリーン・コミュニティ・こおりやま～の開催
6月	02日 第11回総務委員会開催 16日 文書発送並びに第12回総務委員会開催 22日 6月例会開催
7月	01～02日 福島ブロック大会in猪苗代 参加引率 04日 第13回総務委員会開催 18日 文書発送並びに第14回総務委員会開催 20日 7月例会開催
8月	02日 第15回総務委員会開催 05日 奈良JCとの交流会及びうねめまつり踊り流し参加 17日 文書発送並びに第16回総務委員会開催 25日 8月例会開催
9月	05日 第17回総務委員会開催 19日 文書発送並びに第18回総務委員会開催 20日 9月例会・定時総会開催 29～30日 奈良公式訪問参加引率
10月	03日 第19回総務委員会開催 17日 文書発送並びに第20回総務委員会開催

	19日 10月例会開催
11月	06日 第21回総務委員会開催 16日 文書発送並びに第22回総務委員会開催 23日 11月例会開催
12月	04日 第23回総務委員会開催 09日 卒業式開催 19日 12月例会開催 22日 文書発送並びに第24回総務委員会開催

月別事業報告

	持続可能な組織開発委員会
1月	05日 第1回持続可能な組織開発委員会の開催 18日 第2回持続可能な組織開発委員会の開催
2月	03日 第3回持続可能な組織開発委員会の開催 16日 第4回持続可能な組織開発委員会の開催 25日～26日 新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナー開催
3月	02日 第5回持続可能な組織開発委員会の開催 10日 JC説明会開催 17日 第6回持続可能な組織開発委員会の開催 25日 理念共感セミナー開催
4月	05日 第7回持続可能な組織開発委員会の開催 11日 会員拡大会議開催 17日 第8回持続可能な組織開発委員会の開催 19日 チェリーパーティ開催
5月	01日 第9回持続可能な組織開発委員会の開催 17日 第10回持続可能な組織開発委員会の開催
6月	05日 第11回持続可能な組織開発委員会の開催 19日 第12回持続可能な組織開発委員会の開催 23日 JC説明会開催
7月	05日 第13回持続可能な組織開発委員会の開催 06日 会員拡大会議開催 18日 第14回持続可能な組織開発委員会の開催
8月	02日 第15回持続可能な組織開発委員会の開催 18日 第16回持続可能な組織開発委員会の開催 31日 第17回持続可能な組織開発委員会の開催
9月	01日～03日 東北青年フォーラムinきたかみの引率 08日 JC説明会開催 19日 第18回持続可能な組織開発委員会の開催
10月	04日 第19回持続可能な組織開発委員会の開催 20日 第20回持続可能な組織開発委員会の開催 30日 会員拡大会議開催
11月	08日 第21回持続可能な組織開発委員会の開催 20日 第22回持続可能な組織開発委員会の開催
12月	04日 第23回持続可能な組織開発委員会の開催

147

21日 第24回持続可能な組織開発委員会の開催

月別事業報告

	広報渉外委員会
1月	10日 第1回広報渉外委員会の開催 17日 広報誌発刊 18日 第2回広報渉外委員会の開催 ◎ホームページの企画・運営・管理 ◎SNSの管理 ◎相互フォローの企画・運営・管理
2月	07日 第3回広報渉外委員会の開催 16日 第4回広報渉外委員会の開催 25日～26日 223年度 新入会員オリエンテーション並びに現役会員向け会員開発セミナー開催(室合同) ◎ホームページの企画・運営・管理 ◎SNSの管理 ◎相互フォローの企画・運営・管理
3月	06日 第5回広報渉外委員会の開催 23日 第6回広報渉外委員会の開催 ◎ホームページの企画・運営・管理 ◎SNSの管理 ◎相互フォローの企画・運営・管理
4月	05日 第7回広報渉外委員会の開催 18日 第8回広報渉外委員会の開催 ◎ホームページの企画・運営・管理 ◎SNSの管理 ◎相互フォローの企画・運営・管理
5月	02日 第9回広報渉外委員会の開催 16日 広報誌発刊 18日 第10回広報渉外委員会の開催 ◎ホームページの企画・運営・管理 ◎SNSの管理 ◎相互フォローの企画・運営・管理
6月	05日 第11回広報渉外委員会の開催 19日 第12回広報渉外委員会の開催 24日 三井陽一郎氏講演会～JCのあるべき姿とやるべきこと～開催 ◎ホームページの企画・運営・管理 ◎SNSの運営・管理 ◎相互フォローの企画・運営・管理
7月	05日 第13回広報渉外委員会の開催 19日 第14回広報渉外委員会の開催 ◎ホームページの企画・運営・管理 ◎SNSの管理 ◎相互フォローの企画・運営・管理
	03日 第15回広報渉外委員会の開催 17日 広報誌発刊

8月	<p>17日 広報誌発刊</p> <p>18日 第16回広報渉外委員会の開催</p> <p>◎ホームページの企画・運営・管理</p> <p>◎SNSの管理</p> <p>◎相互フォローの企画・運営・管理</p>
9月	<p>04日 第17回広報渉外委員会の開催</p> <p>22日 第18回広報渉外委員会の開催</p> <p>◎ホームページの企画・運営・管理</p> <p>◎SNSの管理</p> <p>◎相互フォローの企画・運営・管理</p>
10月	<p>04日 第19回広報渉外委員会の開催</p> <p>06日～08日 全国大会in東京参加引率</p> <p>20日 第20回広報渉外委員会の開催</p> <p>◎ホームページの企画・運営・管理</p> <p>◎SNSの管理</p> <p>◎相互フォローの企画・運営・管理</p>
11月	<p>07日 第21回広報渉外委員会の開催</p> <p>20日 第22回広報渉外委員会の開催</p> <p>◎ホームページの企画・運営・管理</p> <p>◎SNSの管理</p> <p>◎相互フォローの企画・運営・管理</p>
12月	<p>05日 第23回広報委員会の開催</p> <p>21日 広報誌発刊</p> <p>26日 第24回広報委員会の開催</p> <p>◎ホームページの企画・運営・管理</p> <p>◎SNSの管理</p> <p>◎相互フォローの企画・運営・管理</p>

月別事業報告

	まちづくり委員会
1月	05日 第1回まちづくり委員会の開催 18日 第2回まちづくり委員会の開催
2月	02日 第3回まちづくり委員会の開催 15日 第62回「久米賞・百合子賞」実行委員会設置(室合同) 16日 第4回まちづくり委員会の開催
3月	04日 第5回まちづくり委員会の開催 16日 第6回まちづくり委員会の開催 20日 カーボンニュートラル推進セミナー
4月	05日 第7回まちづくり委員会の開催 18日 第8回まちづくり委員会の開催 24日 第62回「久米賞・百合子賞」第1回実行員会の開催(室合同)
5月	01日 第9回まちづくり委員会の開催 17日 第10回まちづくり委員会の開催 23日 第62回「久米賞・百合子賞」審査員初顔合わせ会
6月	05日 第11回まちづくり委員会の開催 19日 第12回まちづくり委員会の開催
7月	05日 第13回まちづくり委員会の開催 19日 第14回まちづくり委員会の開催 22日 サマーコンファレンス引率
8月	03日 第15回まちづくり委員会の開催 18日 第16回まちづくり委員会の開催
9月	04日 第17回まちづくり委員会の開催 06日 第62回「久米賞・百合子賞」読み合わせ会(室合同) 07日 第62回「久米賞・百合子賞」応募締め切り、一次審査の実施(室合同) 19日 第18回まちづくり委員会の開催 25日 第62回「久米賞・百合子賞」第2回実行員会の開催(室合同)
10月	04日 第19回まちづくり委員会の開催 21日 第62回「久米賞・百合子賞」最終審査会の開催(室合同)

	<p>22日 カーボンニュートラル啓発事業</p> <p>24日 第20回まちづくり委員会の開催</p>
11月	<p>06日 第21回まちづくり委員会の開催</p> <p>20日 第22回まちづくり委員会の開催</p> <p>23日 11月例会並びに第62回「久米賞・百合子賞」授賞式開催(総務委員会、室合同)</p>
12月	<p>04日 第23回まちづくり委員会の開催</p> <p>22日 第24回まちづくり委員会の開催</p> <p>25日 第62回「久米賞・百合子賞」第3回実行委員会の開催(室合同)</p>

月別事業報告

	青少年育成委員会の開催
1月	12日 第1回青少年育成委員会の開催 18日 第2回青少年育成委員会の開催 20～22日 京都会議参加引率
2月	02日 第3回青少年育成委員会の開催 15日 第62回「久米賞・百合子賞」実行委員会設置(室合同) 16日 第4回青少年育成委員会の開催
3月	02日 第5回青少年育成委員会の開催 17日 第6回青少年育成委員会の開催
4月	05日 第7回青少年育成委員会の開催 18日 第8回青少年育成委員会の開催 24日 第62回「久米賞・百合子賞」第1回実行委員会の開催(室合同)
5月	02日 第9回青少年育成委員会の開催 05日 第58階郡山市こどもまつりへの参加 14日 第26回わんぱく相撲こおりやま場所の開催 17日 第10回青少年育成委員会の開催
6月	05日 第11回青少年育成委員会の開催 10日 第26回わんぱく相撲福島ブロック大会引率 19日 第12回青少年育成委員会の開催
7月	04日 第13回青少年育成委員会の開催 15日 わくわくチャレンジキャンプ 事前説明会 24日 第14回青少年育成委員会の開催 30日 第38回わんぱく相撲全国大会引率
8月	03日 第15回青少年育成委員会の開催 11日～12日わくわくチャレンジキャンプの開催 18日 第16回青少年育成委員会の開催
9月	04日 第17回青少年育成委員会の開催 06日 第62回「久米賞・百合子賞」読み合わせ会の開催(室合同) 07日 第62回「久米賞・百合子賞」応募締め切り、一次審査の実施(室合同) 19日 第18回青少年育成委員会の開催

	25日 第62回「久米賞・百合子賞」第2回実行委員会の開催(室合同)
10月	04日 第19回青少年育成委員会の開催 19日 第20回青少年育成委員会の開催 21日 第62回「久米賞・百合子賞」最終審査会の開催(室合同)
11月	06日 第21回青少年育成委員会の開催 20日 第22回青少年育成委員会の開催 23日 11月例会並びに第62回「久米賞・百合子賞」授賞式開催(総務委員会、室合同)
12月	05日 第23回青少年育成委員会の開催 22日 第24回青少年育成委員会の開催 25日 第62回「久米賞・百合子賞」第3回実行委員会の開催(室合同)